

健康増進施設の受容に関する 量的調査報告書

— 利根町住民と近接市町村居住者の行動・態度構造の検証 —

令和2年2月

利根町

■はじめに

本報告書は、以下の内容で構成されている。

【基礎的なデータとそれに基づく考察】

I. 本調査の目的と概要	...	003
II. 量的調査結果のサマリーと考察	...	004
III. 町内郵送調査結果の詳細	...	006
1. 町内調査の回答者属性	...	006
2. 買い物と運動・スポーツ行動	...	010
3. 入浴施設の利用状況	...	016
4. 利根町施設の受容	...	026
5. 費用についての評価	...	042
6. 自由回答記述欄への書き込みコメント	...	044

↑ これらの基礎的なデータとなる。

【関連資料とエビデンスデータ】

1. 利根町民対象の郵送アンケート調査票（巻末資料 P. 53～60）
2. 利根町町民の自由回答全文書き出し（巻末資料 P. 61～77）
3. WEB アンケート調査の調査項目と GT 表（巻末資料 P. 78～93）

I. 本調査の目的と概要

(1) 利根町住民に対するアンケート調査 "健康増進に関するアンケート調査"

- ①調査目的；町民の日常的な生活行動の実態，健康増進施設の利用意向の把握。この両者の相関関係の解明。
- ②調査方法；住民基本台帳からの無作為抽出，郵送による調査票配布と郵送返送
- ③調査規模；20～75歳までの利根町町民 1,500 サンプル，有効回収数 631 サンプル（回収率；42.1%）
- ④実査期間；2019年10月26日～11月13日

(2) 利根町近隣住民に対するWEBアンケート調査 "地域の暮らしに関する意識調査"

- ①調査目的；日常的な入浴行動，利根町の認知度や来訪意向，利根町施設の利用意向やニーズの把握。
- ②調査方法；登録されているインターネットパネルをアンケートサイトに誘導し，アンケートに回答してもらう。
- ③調査規模；以下の割付けによる 800 サンプル

エリア	対象地域	サンプル数
千葉県東葛エリア	我孫子市 柏市	200
千葉県印旛エリア	印西市 栄町 成田市	200
茨城県南西エリア	取手市 牛久市	200
茨城県南東エリア	龍ヶ崎市 河内町 稲敷市 阿見町 美浦村	200

- ④実査期間；2019年9月21日～23日

II. 量的調査結果のサマリーと考察

(1) 健康増進のための入浴施設の受容度

利根町住民に対して行ったアンケート調査は、郵送形式のものとしては比較的高い回収率となった。アンケートのタイトルになっていた「健康増進」や入浴施設といった内容について興味を持たれていることの現れとみることができよう。

利根町施設について、想定されるさまざまなサービスや付帯設備を示した上で、利用意向を尋ねたところ、回答者の7割が利用したいとの意向を示した。「ぜひ利用したい」といった積極意向が、「利用したい」という姿勢を上回ったことも留意しておきたい。こうした意向がどの程度、実際の利用につながるのかについては、様々な条件によって変化してくるものと思われる。

(2) 想定されるユーザー層

どのような属性が当該施設を利用するのか。もっとも想定しやすいのは、現時点で入浴施設（温泉、スパ、銭湯、健康ランド、スーパー銭湯）の利用者である。入浴施設の利用状況については、「現在利用している」（現在利用者）が2割、「過去に利用したが、現在は利用していない」（利用経験あり）と「利用したことがない」（未経験者）それぞれ4割となっている。現在利用者のうち、一か月に1回以上通っている《アクティブユーザー》は、3割であり、全体の中ではわずかな割合でしかない。この層が利根町施設の利用のコア層と考えられるものの、現時点で近隣にある入浴施設を利用されており、それらとの比較において、利用有無が決まってくるだろう。これまで利用してきたところが総合的によいと判断されれば、利根町民とは言え、町内の身近な施設よりも多少時間がかかっても、現在の利用している施設に通い続ける可能性が高いと考えられる。

また利用経験あり層での受容も考えられるが、現在施設を利用していない理由は今回の調査では明らかではなく、利用経験があるからというだけで受容性があるとは断言しづらい。

ところで、非使用意向の理由として半数から挙げられている「知り合いと会うのが面倒だから」という考え方は若年層や女性でやや強くみられる傾向であり、施設の利用促進の阻害要因になると思われる。

町外からの来場見込みについては、近隣の茨城県南東部からの利用意向が比較的高い。だが利根町周辺にも入浴施設は複数存在し、それらの選択肢の中から利根町の施設が選ばれるとも限らない。利根町の入浴施設が周辺施設にはないような特色を持っていなければ、近隣からの来場者を多数集客するには至らないだろう。

(3) どういった目的での受容があるのか

純粋な健康増進というよりも、リラックスや外食などのスペースとして魅力が感じられている。運動マシーンや筋力トレーニング設備や水着浴ゾーンの温水プールといった設備に対する魅力度合いはさほど高いものではなく、“あれば利用したい”程度のものである。20代といった若年層でのそれぞれの項目の魅力度合いが高く、さまざまな用途を兼ね備えたアミューズメント的な施設を想起しているようである。年代が上がるにしたがって、それぞれの項目について魅力を感じる割合が低くなり、入浴施設については多くのことを求めなくなっていく傾向がみられる。入浴という基本的な機能を充たせば、十分であるといった認識が垣間見られる。

現在利用者では、お風呂の広さ、お風呂の種類が豊富といった基本的な入浴行動に関わるものに加えて、飲食施設、サウナといった付加的なサービスを重視している傾向があり、

目の肥えた現在利用者を満足させるためには、これらの目的を踏まえた設備、サービスを構想する必要がある。

(4) いかなる運営形態が望まれているのか

行政が設置し、自ら運営するという考え方（官設官営）はあまり支持されておらず、官設民営、民設民営が同程度で支持された。「そもそも必要ない」という見解は、少数ながら1割ほど見られた。

実際に自由回答でも、行政の直営ではできないようなサービスを求める声が多数挙げられていた。行政では思い切ったサービス提供が難しく、民間業者の誘致等による民設民営が現実的かつ望ましいと考えられている。

施設利用の費用については、施設利用料の安さなどコストパフォーマンスが高いことが重視されている。クーポン・ポイントサービスを望む意見割合も高い。具体的な金額イメージとしては、基本料金プランでは500～1,000円、付帯的なサービスを含む場合には800～1,500円前後が妥当な額とみられている。

なお、いかなる経営・運営形態であったとしても、事業の継続性を担保するためには、リピーターの確保が重要であろう。本調査では、当該施設について1週間に一度以上というかなりの高頻度での利用見込み意向が示されているが、果たしてその通りになるのか。

そのためには、定期的に足を運ぶようなモチベーション（動機）が求められる。箱物だけ作ることが重視されれば、それがいかに豪華な作りであったとしても、いずれ陳腐化、飽きられることは避けられない。早いサイクルで交換可能な装置やさまざまなイベントがあることで、常時、何かしら行われているような“にぎわい感”を創出する必要があるのではないかと。継続的な集客のためには、清潔かつ値ごろ感ある中核的な入浴施設とともに、プラスアルファのソフト的な要素が重要であると考えられる。その候補になるのがアンケートや自由記述意見でみられた食事処、運動設備、リラックスやコミュニケーションの空間などである。

Ⅲ. 町内郵送調査結果の詳細

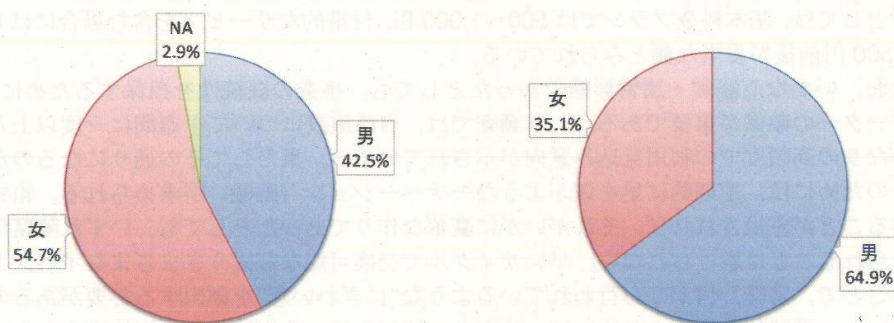
1. 町内調査の回答者属性

比較的高い回収率に恵まれた本調査であったが、最初に回答者の属性を確認しておく。

①回答者の性別

性別に関しては女性が55%とやや男性(43%)を上回った(図表1-1左)¹。利根町近隣住民に対するWEBアンケート調査＝「町外調査」の回答者は、男性が多数派で65%と全体の2/3を占める結果となった(図表1-1右)。

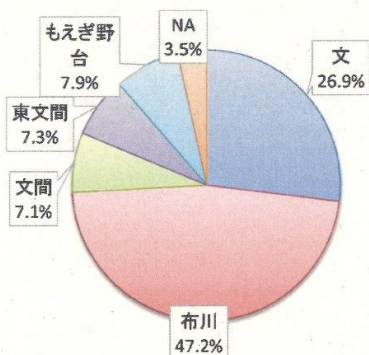
図表 1-1 性別 (左：町内調査 / 右：町外調査)



②回答者の居住地

町内調査の回答者の居住地域については、布川地区47%、文地区27%などが多い結果となった。

図表 1-2 居住地域 (町内調査)



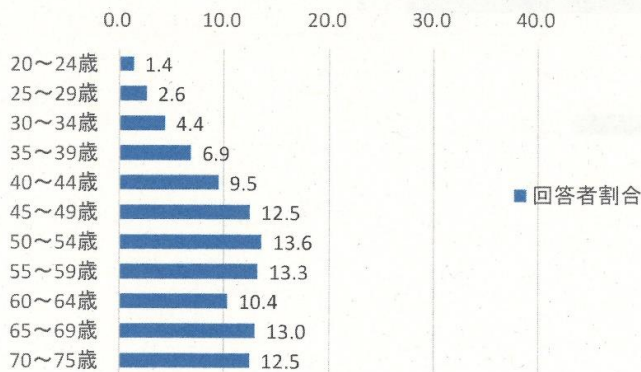
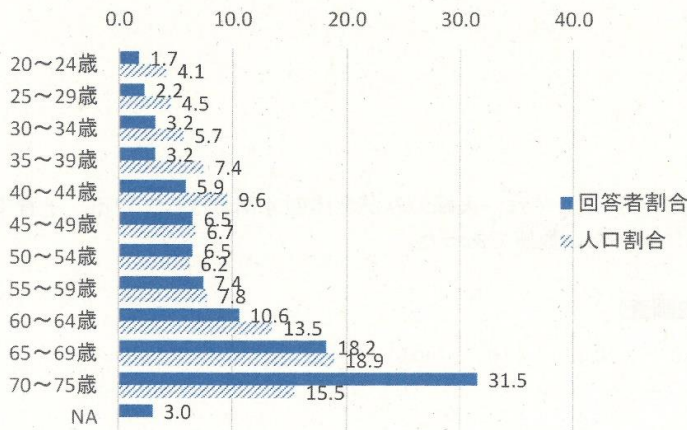
¹ グラフ中に表示があるNAは、No Answerの略称であり、回答欄に何も記入がない場合を指す。WEB調査の場合には、必ず何かを入力しないと次の設問に進めないためにNAは存在しない。町内調査のサンプル数は明示がない場合には、631である。

③年代

年代(図1-3上)に関しては、70～75歳が32%、65～69歳が18%と、65歳以上で比較的健康・活発と思われる《アクティブシニア世代》が、回答者全体の半数を占める結果となった。実際の人口割合(2015年利根町年齢階級別の人口実勢)と比較してみると、20～40代前半までの若年・中年世代の回答割合が人口割合と比較して低く、70代以上が突出して高い数値となっている。もともとこの種の自記式アンケート調査全般においては高年者の回答割合は高いことが知られている。今回も同様の傾向となり、またこの層に於いて健康増進というテーマやアンケート内容について関心が高かったことも推察される。

町外調査(図表1-3下)では、20～30代後半の若年層の構成比が低いが、40代以降は、10%前後の構成となっている。町外調査では60歳以上の割合は35%ほどに留まり、町内調査ほど調査結果全体について高年層の影響を受けているものではない。

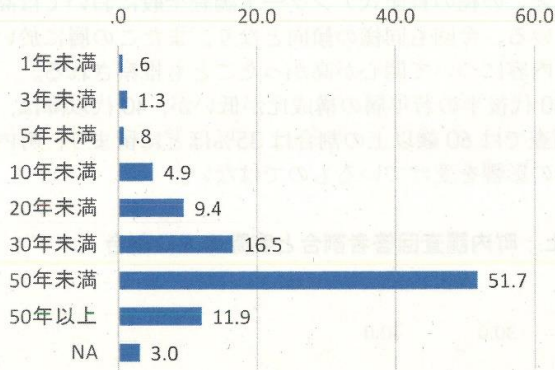
図表1-3 5歳刻みの回答者比率(上; 町内調査回答者割合と実際の人口割合 / 下; 町外調査 単位; %)



④居住歴

利根町の居住歴（図表 1-4）では、50年未満が52%と過半数であり、50年以上（12%）と合わせると、回答者全体の2/3が30年以上の長期間の居住歴である。

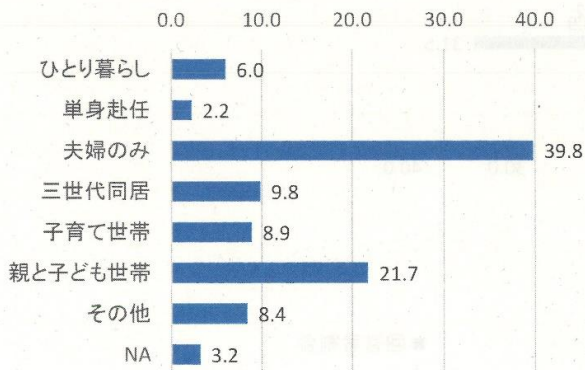
図表 1-4 利根町への居住歴（町内調査）



⑤居住形態

回答者の居住形態（図表 1-5）としては、夫婦のみが全体の4割となっている。子育て世帯、三世帯同居は10%に届かない数値であった。

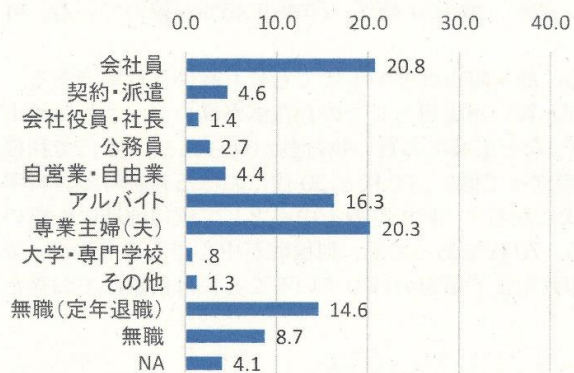
図表 1-5 居住形態（町内調査）



⑥職業

回答者の職業（図表 1-6）としては、会社員，専業主婦が 20%で並んでいる。

図表 1-6 職業（町内調査）



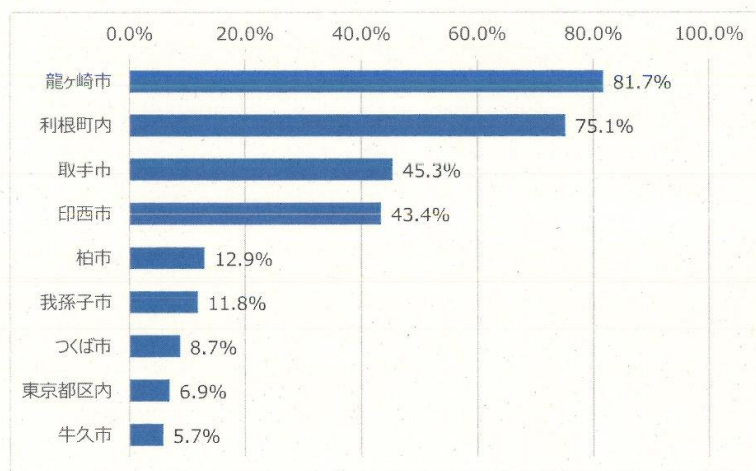
2. 買い物と運動・スポーツ行動

① 買い物の場所

休日の買い物場所（図表 2-1）²について、月 1 回以上行く場所を複数回答形式で挙げてもらったが、龍ヶ崎市が突出して高く 82%，取手市 45%，印西市 43%が続いている。町内という人は 75%いた。

年代別でクロス集計してみたところ、龍ヶ崎市はどの年代でも最も高い首肯率である。若年層では、印西市を挙げる人が 6 割と買い物場所としての存在感が高いが、さらに柏市 44%，東京都区内 44%，つくば市 24%など広域での買い物行動が見られる。20 代で利根町を挙げる人は 40%と他年代よりも際立って低い。20 代と 30 代における利根町の首肯率が大きく異なっていることから、30 代になると、利根町内を中心として周辺地域にも買い物に出かけているようすがうかがえる。70 代であっても、利根町が中心であるものの、少なからず人に龍ヶ崎市、取手市、印西市まで足をのびしていることには留意しておきたい。

図表 2-1 休日の買い物場所（複数回答 5%以上の項目でソーティング）



		N数	龍ヶ崎市	利根町内	取手市	印西市	柏市	我孫子市	つくば市	東京都区内	牛久市
年代10 歳刻み	20代	25	60.0%	40.0%	36.0%	60.0%	44.0%	12.0%	24.0%	44.0%	4.0%
	30代	40	82.5%	70.0%	32.5%	65.0%	15.0%	5.0%	15.0%	7.5%	10.0%
	40代	78	79.5%	61.5%	41.0%	44.9%	9.0%	14.1%	10.3%	5.1%	7.7%
	50代	88	79.5%	75.0%	55.7%	44.3%	15.9%	9.1%	15.9%	9.1%	9.1%
	60代	181	86.2%	78.5%	42.0%	44.8%	9.4%	13.8%	7.7%	4.4%	4.4%
	70代	199	81.9%	82.9%	49.2%	34.7%	12.1%	11.6%	2.5%	4.0%	4.0%
合計		611	81.7%	75.1%	45.3%	43.4%	12.9%	11.8%	8.7%	6.9%	5.7%

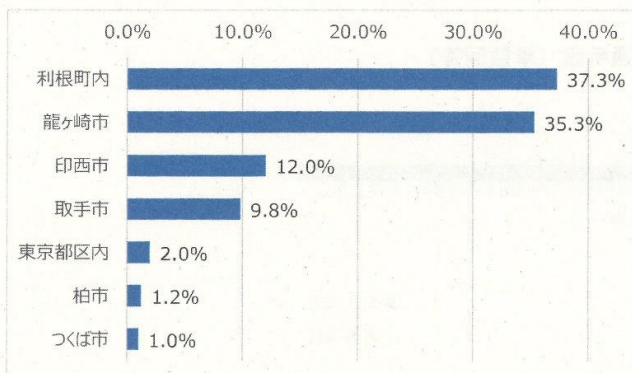
² 以下の集計では、NA を除外して計算している。設問ごとに回答する人数の総和が異なってくるために、集計の母集団数自体はそれぞれで異なる。WEB 調査では NA は存在しないが、それと相互比較を可能にするために、回答割合を回答者の総和で計算する方式を採用している。クロス集計している場合には、そのクロス項目の合計値で示している。クロス集計項目が複数ある場合には、その属性のうちのいずれかの項目で合計値が表示されている。

②最も買い物に行く場所

買い物に行かない人を除き、最もよく行く買い物場所（図表 2-2）については、利根町 37%、龍ヶ崎市 35%が拮抗する結果となった。

年代別では若年層では印西市の首肯率が目立つところである。20代は拡散傾向がみられる。年代が上がるにしたがって、利根町と龍ヶ崎市の首肯率が高まり、70代では利根町が45%と、買い物行動を利根町で完結させている人が半数近くいる。

図表 2-2 買い物には行かない方を除いた休日の買い物場所（単数回答）



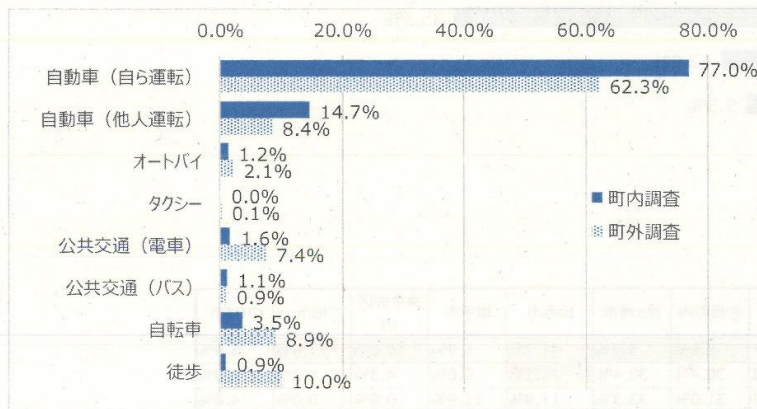
		N数	利根町内	龍ヶ崎市	印西市	取手市	東京都区内	柏市	つくば市
年代10 歳刻み	20代	17	5.9%	5.9%	41.2%	5.9%	17.6%	17.6%	5.9%
	30代	23	30.4%	30.4%	26.1%	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%
	40代	42	31.0%	33.3%	11.9%	11.9%	0.0%	0.0%	4.8%
	50代	52	32.7%	36.5%	9.6%	17.3%	1.9%	1.9%	0.0%
	60代	131	38.2%	42.0%	10.7%	6.9%	.8%	0.0%	.8%
	70代	143	44.8%	33.6%	8.4%	11.2%	1.4%	0.0%	0.0%
	合計	408	37.3%	35.3%	12.0%	9.8%	2.0%	1.2%	1.0%

③交通手段

普段使用している交通手段（図 2-3）については、自動車 77%と圧倒的に多数という結果になった。自動車の活用は自ら運転，他人運転に同乗ともに，町内の方が町外よりも高い率となっている。都市郊外立地であっても，周辺地域よりも利根町の方がより車依存の地域であることが浮き彫りになった。

20代で自ら運転の自動車という割合がその上の世代と比べるとやや低く，公共交通機関利用 17%が目立って高率となっている。60代を過ぎると，自ら運転するよりも家族・知人などの運転する自動車に同乗するという割合が 18%，自転車が 5%前後とやや高くなっている。

図表 2-3 普段お使いの主たる交通手段（単数回答）



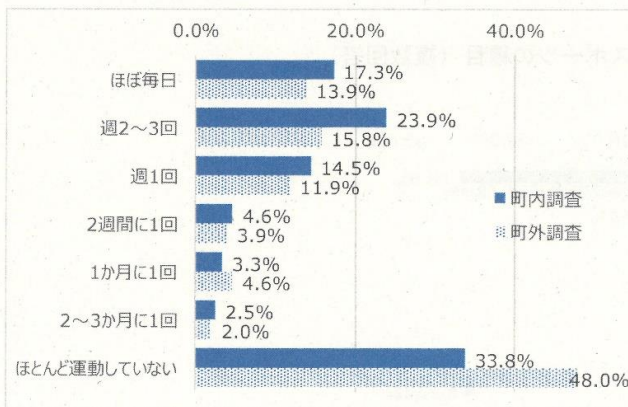
	N数	自動車 （自ら運 転）	自動車 （家族・ 知人）	オートバイ	公共交通 機関（電 車）	公共交通 機関（バ ス）	自転車	徒歩
年代10 歳刻み	20代	24	75.0%	8.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	30代	38	86.8%	7.9%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%
	40代	72	86.1%	6.9%	1.4%	1.4%	1.4%	2.8%
	50代	76	82.9%	10.5%	3.9%	1.3%	1.3%	0.0%
	60代	170	72.9%	18.2%	.6%	.6%	1.2%	5.3%
70代	184	72.8%	18.5%	1.1%	0.0%	1.1%	4.9%	
合計	564	77.0%	14.7%	1.2%	1.6%	1.1%	3.5%	

④運動・スポーツの頻度

普段、運動・スポーツする頻度（図表 2-4）は、ほぼ毎日が17%、週2～3日24%など1週間のうち複数回が4割、さらに週1回15%を含めると、5割台後半に達する。一方で、ほとんど運動しないも34%とまとまって存在している。その中間はあまりおらず、“アクティブ層”と“消極層”に2極分化している構図がみられた。町外調査では、ほとんど運動しないが48%と半数近くに達し、アクティブ層よりも消極層の方が大勢である。

年代によって大きな差がみられ、ほぼ毎日運動するのは、60代で19%、70代で29%と他年代を圧倒している。40代はほとんど運動していない割合が過半数に達するなど最も動かない年代と言える。20代は2週間、1か月、2～3か月に一度の比率がそれぞれ12%、12%、12%合わせて36%に達するなど、アクティブ（割合は低い）、中間（割合はやや低い）、消極（最も高い割合）の3局構造となっている。

図表 2-4 普段、運動・スポーツをする頻度（単数回答）



		N数	頻度						
			ほぼ毎日	週2～3回	週1回	2週間に1回	1か月に1回	2～3か月に1回	ほとんど運動していない
年代10 歳刻み	20代	25	0.0%	16.0%	4.0%	12.0%	12.0%	12.0%	44.0%
	30代	40	5.0%	12.5%	17.5%	7.5%	10.0%	5.0%	42.5%
	40代	78	6.4%	17.9%	11.5%	6.4%	5.1%	1.3%	51.3%
	50代	87	8.0%	19.5%	16.1%	3.4%	6.9%	1.1%	44.8%
	60代	180	18.9%	25.6%	16.7%	4.4%	1.1%	.6%	32.8%
	70代	196	29.1%	30.1%	13.8%	3.1%	.5%	3.6%	19.9%
	合計	606	17.3%	23.9%	14.5%	4.6%	3.3%	2.5%	33.8%

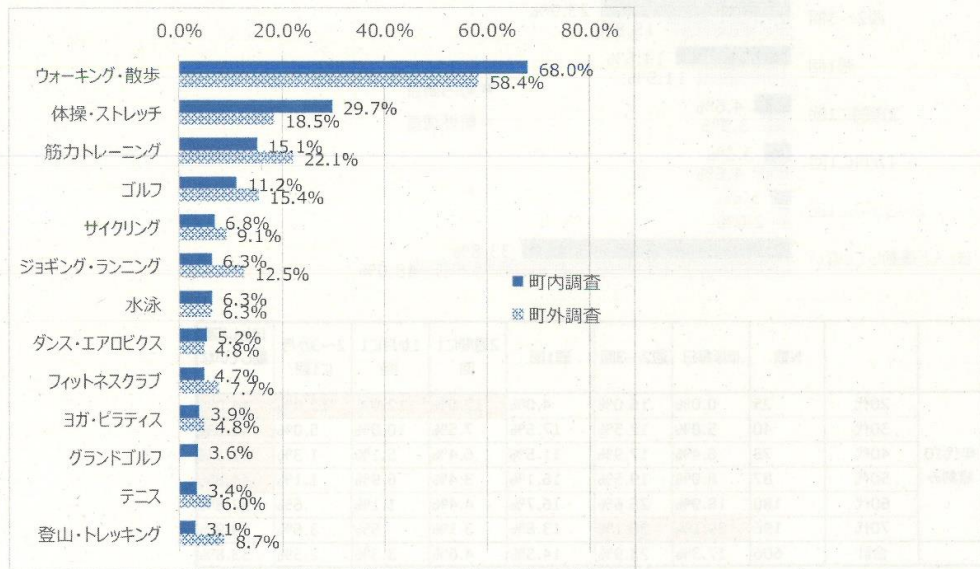
⑤運動・スポーツの種類

次にほとんど運動をしていない人を除いて、行っている運動・スポーツの種目については見ていく。まんべんなくというよりも特定スポーツに偏っている傾向である。図表 2-5 で見る通り、ウォーキング・散歩が 68%と顕著に高く、体操・ストレッチが 30%、筋力トレーニング 15%がかなり差をつけられる形で続いている。いずれも大規模な設備等がなくてもできるものが上位である。町外調査との比較では、ウォーキング・散歩、体操・ストレッチの行為者率は、町内調査の方が勝るが、それ以外のより下位の科目については、町外調査回答者の行為者率が、町内調査のそれを上回っている。

年代、運動スポーツ頻度別にみると、高年層の大多数がウォーキング・散歩を実践している。登山・トレッキング、スノーボード・スキー、野球、サッカーなど身体的負担が大きい種目については、高年層での行為者率は概して高くない。若年層での行為者率が高いものも相当数みられる。

ほぼ毎日運動している人の中では、ウォーキング・散歩(82%)、体操・ストレッチ(37%)といった種類の首肯率が高くなっている。

図表 2-5 現在行っている運動・スポーツの種目（複数回答）



		N数	ウォーキング・散歩	体操・ストレッチ	筋力トレーニング	ゴルフ	サイクリング	ジョギング・ランニング	水泳	ダンス・エアロビクス	フィットネスクラブ	ヨガ・ピラティス
若中高年代区分	若年層	35	28.6%	14.3%	31.4%	8.6%	8.6%	5.7%	0.0%	5.7%	0.0%	5.7%
	中年層	77	64.9%	27.3%	18.2%	6.5%	5.2%	9.1%	6.5%	7.8%	9.1%	5.2%
	高年層	264	74.2%	31.8%	12.5%	12.5%	7.2%	5.7%	6.1%	4.5%	4.2%	3.0%
問1.運動・スポーツ頻度	ほぼ毎日	105	81.9%	37.1%	15.2%	10.5%	12.4%	7.6%	6.7%	1.9%	4.8%	3.8%
	週2~3回	139	63.3%	32.4%	19.4%	7.9%	4.3%	7.9%	7.9%	7.9%	6.5%	5.8%
	週1回	81	67.9%	24.7%	11.1%	13.6%	2.5%	2.5%	3.7%	8.6%	4.9%	3.7%
	2週間に1回	27	51.9%	22.2%	14.8%	18.5%	11.1%	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	1~3月に1回	46	56.5%	17.4%	10.9%	17.4%	8.7%	6.5%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
合計		384	68.0%	29.7%	15.1%	11.2%	6.8%	6.3%	6.3%	5.2%	4.7%	3.9%

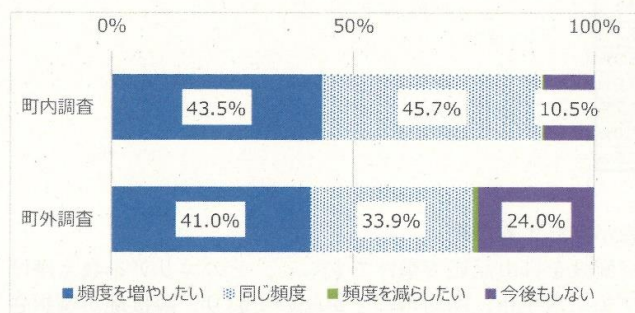
		N数	ゴルフ	テニス	登山・トレッキング	武道	スノーボード・スキー	卓球	野球	サッカー	バドミントン	バスケットボール
若中高年代区分	若年層	35	0.0%	5.7%	8.6%	5.7%	11.4%	0.0%	8.6%	14.3%	5.7%	0.0%
	中年層	77	0.0%	2.6%	1.3%	2.6%	1.3%	1.3%	2.6%	0.0%	1.3%	1.3%
	高年層	264	5.3%	3.4%	3.0%	1.5%	1.1%	2.7%	.4%	0.0%	.4%	0.0%
問1.運動・スポーツ頻度	ほぼ毎日	105	5.7%	3.8%	1.0%	2.9%	1.9%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
	週2~3回	139	2.9%	5.8%	1.4%	.7%	.7%	5.0%	2.2%	2.2%	.7%	0.0%
	週1回	81	4.9%	1.2%	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
	2週間に1回	27	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%
	1~3月に1回	46	0.0%	0.0%	6.5%	2.2%	2.2%	0.0%	4.3%	2.2%	4.3%	0.0%
	合計	384	3.6%	3.4%	3.1%	2.1%	2.1%	2.1%	1.6%	1.3%	1.0%	.3%

⑥運動・スポーツ頻度の増減意向

今後、運動スポーツの頻度をもっと増やしたいと思うのかについて（図表 2-6）は、「これまでより頻度を増やしたい」という積極意向が 44% で挙げられた。町外調査でも 4 割が積極意向をして示しており、社会趨勢の一つと捉えられる。ただし、「今後もしない」という層も一定数見られ、町内調査では 11%、町外調査では 24% と看過できない割合である。

年代で言えば、若・中年層での積極意向が強くみられる。60 代、70 代ではそれなりの頻度で実践されており、「同じ程度」の割合が、それより下の年代よりも大幅に高くなっている。

図表 2-6 今後、運動・スポーツの頻度をもっと増やしたいか（単数回答）



		N数	頻度を増やしたい	同じ頻度	頻度を減らしたい	今後もしない
年代10歳刻み	20代	25	72.0%	24.0%	0.0%	4.0%
	30代	40	60.0%	30.0%	0.0%	10.0%
	40代	74	64.9%	24.3%	0.0%	10.8%
	50代	86	61.6%	29.1%	1.2%	8.1%
	60代	171	40.4%	46.2%	0.0%	13.5%
	70代	186	22.0%	67.7%	.5%	9.7%
	合計	582	43.5%	45.7%	.3%	10.5%

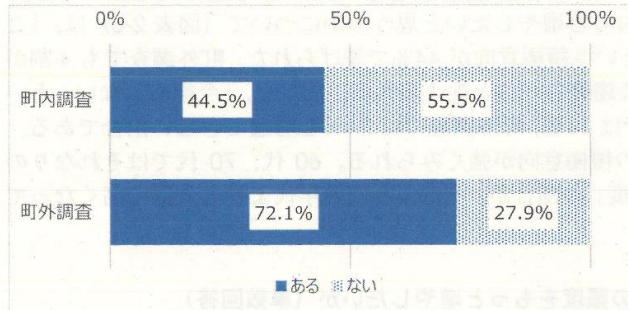
3. 入浴施設の利用状況

①入浴施設の有無

身近に利用することが可能な入浴施設（温泉，スパ，銭湯，健康ランド，スーパー銭湯）の有無について尋ねている。図表 3-1 より，町内調査では 45%があるとしている。町外調査では 72%があるとしており，利用環境のよさという点では，町内在住者は町外在住者よりも利用できる環境に恵まれていないという感覚を強く持っている。

町内であっても，文間地区では 51%，東文間地区では 38%と，居住エリアの立地によって，認識差がみられる。

図表 3-1 身近に利用することが可能な入浴施設があるか（単数解答）



		N数	ある	ない
問3.お 住まいの 地区	文地区	167	44.3%	55.7%
	布川地区	293	44.0%	56.0%
	文間地区	45	51.1%	48.9%
	東文間地区	45	37.8%	62.2%
	もえぎ野台	50	48.0%	52.0%
合計		600	44.5%	55.5%

②入浴施設利用者がよく行く施設が存在する市町

入浴施設利用者がよく行く入浴施設を自由記述で挙げてもらい，そのエリアを数え挙げた（図表 3-2）。龍ヶ崎市をトップに，取手市，印西市などが続いており，隣接地が選択されている。後述の自由回答記述でも，龍ヶ崎市の入浴やプール施設の名前が散見され，身近なところとして，選択されやすいものと思われる。

図表 3-2 よく行く入浴施設（自由記述，所在地のみ集計，単位：件）

龍ヶ崎市	34
取手市	28
印西市	20
柏市	20
我孫子市	6
白井市	6
成田市	6
つくば市	2
守谷市	1
常総市	1
石岡市	1
銚子市	1
土浦市	1

③入浴施設の利用有無

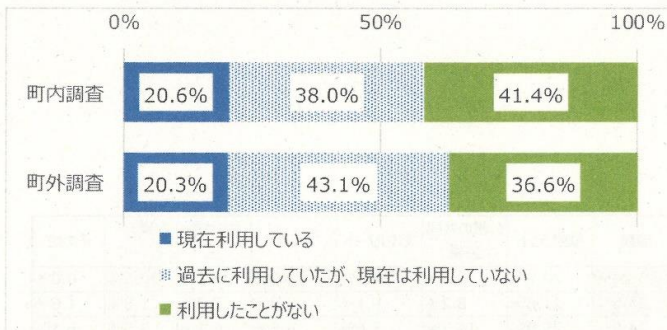
図表 3-3 で示されている通り、現在利用者は 21%と少数派に留まっている。「利用したことがない」41%が最多数派であり、「過去に利用していたが、現在は利用していない」も 38%と合わせて、入浴施設が普段の日常生活とは縁遠い存在になっていることがうかがわれる。現在利用者 2 割という結果は町内、町外問わずのほぼ同様の状況である。

属性別は、男女では少し差があり、現在利用者が男性での割合がやや高く、利用したことがないでは女性の方での回答割合が高くみられる。年代別にみると、現在利用者の割合では 50 代 (33%) が突出して高く、逆に 30 代での利用率はその半分 (15%) となっている。今挙げた二つの年代以外では、20%前後であり、総じて高いものではない。60 代以上では、利用未経験者が 4 割台後半で、他年代よりも高くなっている。20 代若年層では、利用未経験の割合が 25%と低い割合となっている。

居住地域別では、文間地区での利用割合が 30%と高く、もえぎ野台 8%と際立つ低利用者率を除けば、20%前後となっている。東文間地区 49%、文地区 46%が利用未経験者の割合となっている。

年代的な色分けがはっきりしている。利用未経験者が多いのは、高年層である。50 代での活発な利用を除けば、20～40 代は経験があるが、現在は利用していないが 4 割に達している。経験があるが現在利用していない理由は本調査では明らかではないが、利用しない心理的・物理的な障壁が解消されれば、町内入浴施設のユーザー候補になりうるだろう。

図表 3-3 身近な入浴施設の利用有無



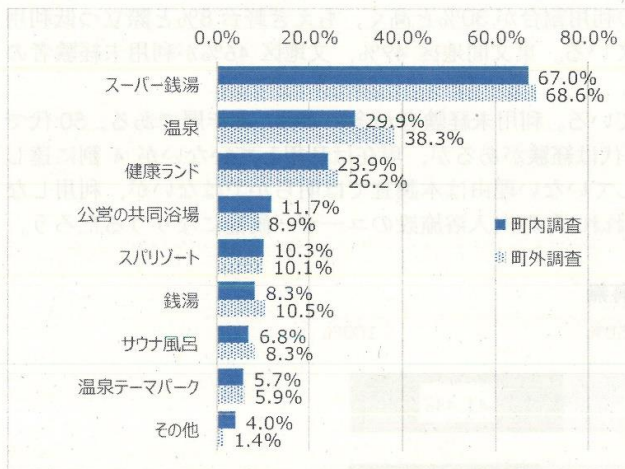
問4.性別		N数	現在利用している	過去に利用していたが、現在は利用していない	利用したことがない	利用経験あり
問3.お住まいの地区	男	261	24.1%	37.2%	38.7%	61.3%
	女	341	18.5%	38.1%	43.4%	56.6%
年代10歳刻み	20代	24	20.8%	54.2%	25.0%	75.0%
	30代	40	15.0%	47.5%	37.5%	62.5%
	40代	77	20.8%	44.2%	35.1%	64.9%
	50代	85	32.9%	37.6%	29.4%	70.6%
	60代	180	18.9%	33.3%	47.8%	52.2%
	70代	195	19.0%	34.9%	46.2%	53.8%
問3.お住まいの地区	文地区	169	19.5%	34.3%	46.2%	53.8%
	布川地区	290	21.7%	40.0%	38.3%	61.7%
	文間地区	44	29.5%	36.4%	34.1%	65.9%
	東文間地区	45	22.2%	28.9%	48.9%	51.1%
	もえぎ野台	50	8.0%	48.0%	44.0%	56.0%
	合計	598	20.6%	38.0%	41.5%	58.5%

④入浴施設の種類

図表 3-4 に示す通り、スーパー銭湯が 67% と圧倒的に多く、次いで温泉 (30%)、健康ランド (24%) などとなっている。町外調査との比較で言えば、スーパー銭湯が 7 割とほぼ同程度である。温泉では町外調査の方がやや高い割合 (町内 30% < 町外 38%) であるが、それ以外はさほど大きな違いは見られない。

年代別に見ると、若年層では、温泉、スパリゾート、温泉テーマパークなど多様な入浴行動を行っており、この世代にとっては、入浴施設に行くことは一種の“レジャー体験”と捉えられていると想定される。スーパー銭湯の利用については、中年層で最も高くなっており、入浴施設の受容層の中核をなしていると思われる。

図表 3-4 利用する入浴施設の種類 (複数回答)



		N数	スーパー銭湯	温泉	健康ランド	公営の共同浴場	スパリゾート	銭湯	サウナ風呂	温泉テーマパーク	その他
若中高 年代区 分	若年層	44	68.2%	38.6%	20.5%	6.8%	34.1%	15.9%	9.1%	20.5%	0.0%
	中年層	110	77.3%	35.5%	21.8%	8.2%	9.1%	8.2%	7.3%	1.8%	1.8%
	高年層	197	60.9%	24.9%	25.9%	14.7%	5.6%	6.6%	6.1%	4.6%	6.1%
合計		351	67.0%	29.9%	23.9%	11.7%	10.3%	8.3%	6.8%	5.7%	4.0%

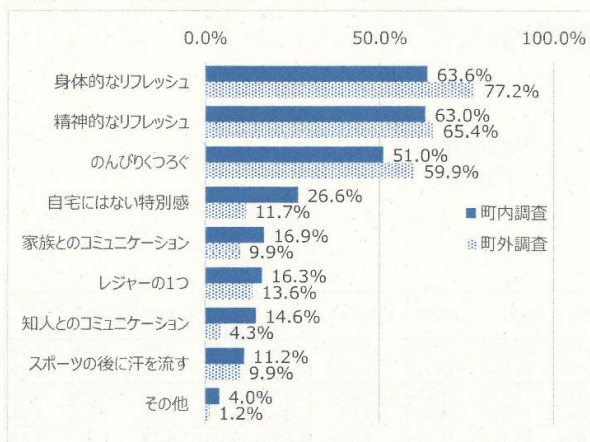
⑤入浴施設に行く目的

入浴施設に行く目的（図表 3-5）としては、身体的なリフレッシュ（64%）、精神的なリフレッシュ（63%）がほぼ同率である。続く、「のんびりくつろぐ」（51%）と合わせて、「リラックスの場所」として捉えられている。また非日常の場としての活用「自宅では体験できない特別感」（27%）、「レジャーの一つ」、そしてコミュニケーションの場「家族とのコミュニケーション」（17%）、「友人や知人とのコミュニケーション」（15%）もまとまった割合で挙げられている。

リフレッシュやくつろぐといった点では、町外の方がいずれも首肯率が高く、それらを主目的としているようすがうかがえる。一方、町内では、自宅にはない特別感（町内 27% > 町外 12%）、家族とのコミュニケーション（17% > 10%）、知人とのコミュニケーション（15% > 4%）など、単なる癒しやヒーリングを求める以外の目的の割合が高くなっている点は特徴的な傾向といえる。

年代別では、若年層では、多用途で挙げられており、それらの目的のためにわざわざ出かけてための場所になっていることがうかがえる。

図表 3-5 入浴施設に行く目的（複数回答）



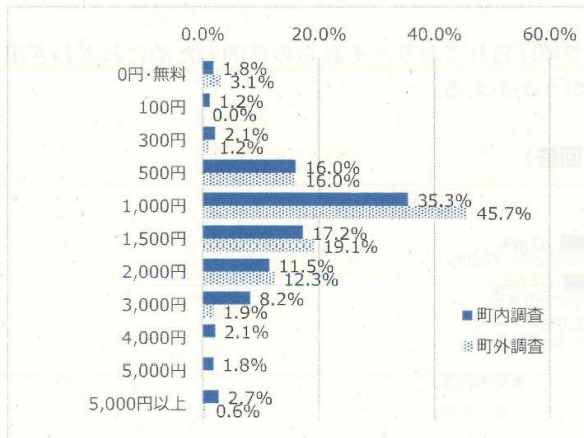
		N数	身体的な	精神的な	のんびりくつ	自宅では体	家族とのコ	レジャーの1	友人や知	スポーツの	その他
			リフレッシュ	リフレッシュ	ろぐ	験できない特別感	ミュニケーション	つ	人とのコミュニケーション	後に汗を流す	
若中高年代区分	若年層	43	67.4%	76.7%	51.2%	32.6%	14.0%	23.3%	23.3%	16.3%	2.3%
	中年層	108	68.5%	69.4%	49.1%	24.1%	19.4%	20.4%	7.4%	7.4%	1.9%
	高年層	198	60.1%	56.6%	52.0%	26.8%	16.2%	12.6%	16.7%	12.1%	5.6%
	合計	349	63.6%	63.0%	51.0%	26.6%	16.9%	16.3%	14.6%	11.2%	4.0%

⑥入浴施設で使う金額（一人あたり）

金額の分布は図表 3-6 の通りである³。1,000 円という金額が 35%と全体の 1/3 の割合となっており、おおよその金額の目安になっていることが想定される。次は 1,500 円で 17%合わせて過半数となる。町外でも 1,000 円（46%）で際立って高い割合であり、1,500 円（19%）と合わせて 66%となり、この二つの価格帯に集中している傾向がみられる。

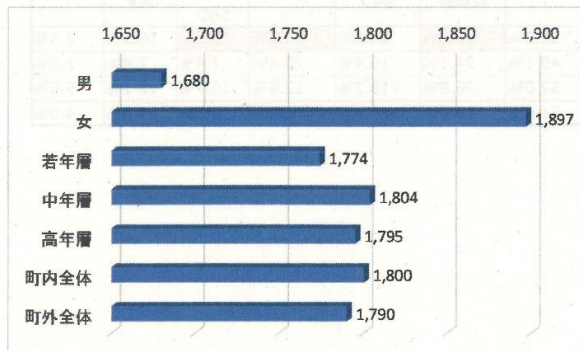
各選択項目に金額の重みづけをする加重平均値で再計算すると（図表 3-7）、町民全体では 1,800 円で、町外とほぼ同一金額である。また女性での支出が 1,900 円と支出単価がやや高く、男性については 1,680 円と低い値となっている。年代については、中年層が 1,800 円を超えるなど、わずかに高くなっているが、1,700 円台後半で揃っている。

図表 3-6 入浴施設で使う金額（一人あたり）（単数回答）



		N数	0円・無料	100円	300円	500円	1,000円	1,500円	2,000円	3,000円	4,000円	5,000円	5,000円以上
問3.性別	男	148	1.4%	1.4%	1.4%	20.3%	37.2%	18.2%	7.4%	6.8%	2.0%	2.0%	2.0%
	女	184	2.2%	1.1%	2.7%	12.5%	33.7%	16.3%	14.7%	9.8%	2.2%	1.6%	3.3%
若中高年代区分	若年層	44	0.0%	4.5%	0.0%	11.4%	34.1%	25.0%	11.4%	9.1%	2.3%	2.3%	0.0%
	中年層	106	.9%	.9%	1.9%	16.0%	38.7%	14.2%	11.3%	11.3%	0.0%	1.9%	2.8%
	高年層	181	2.8%	.6%	2.8%	17.1%	33.7%	17.1%	11.6%	6.1%	3.3%	1.7%	3.3%
	合計	331	1.8%	1.2%	2.1%	16.0%	35.3%	17.2%	11.5%	8.2%	2.1%	1.8%	2.7%

図表 3-7 入浴施設で使う金額（一人あたり）の試算 加重平均値



³ 質問文では入場料以外、施設内での飲食・物品購入・サービス利用を含むものとしている。
1人当たりの金額を回答となっているが、高額な回答もあり家族総額と誤認の可能性もある。

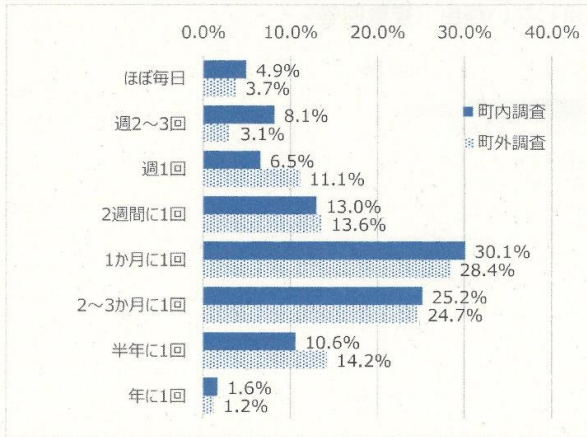
⑦入浴施設に行く頻度

図表 3-8 の通り、頻度として高い割合は、1 か月に 1 回(30%)、2～3 か月に 1 回(25%)、この 2 つの項目で全体の過半数である。町外との比較で言えば、週 2～3 回が 8%と町外(3%)よりもやや高い割合であるが、週 1 回では 7%と町外 11%よりも低くなっている。1 週間に 1 回以上というくりで考えれば、ほぼ同程度であり、それ以上の間隔が空いた頻度ではさほど大きな違いは見られない。

性別では、男性が 1 か月に 1 回が 36%とやや目立ち、2～3 か月の 26%を合わせると 60%を超える。女性は、1 か月に 1 回と 2～3 か月が同率の 25%である。この合計で半数程度だが、その他はやや分散傾向にある。

年代別では、若年層はサンプル数希少により参考値だが、2～3 か月に 1 回が半分となっており、目立って多い人数となっている。中年層では週 1 回 11%と 2 週間に一度 18%合わせて 3 割近くいる一方で、半年に一回も 20%とまとまった数値であり、頻度高いと頻度低いが二極化している傾向がみられる。高年層は、1 か月に 1 回が 39%と集めているが、週 2～3 回も 13%とやや高い傾向もみられる。

図表 3-8 入浴施設に行く頻度 (単数回答)



問3.性別	N数	ほぼ毎日	週2～3回	週1回	2週間に1回	1か月に1回	2～3か月に1回くらい	半年に1回	年に1回
		男	62	6.5%	8.1%	3.2%	11.3%	35.5%	25.8%
女	61	3.3%	8.2%	9.8%	14.8%	24.6%	24.6%	11.5%	3.3%
若中高年代区分	11	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	27.3%	54.5%	0.0%	0.0%
中年層	45	2.2%	2.2%	11.1%	17.8%	17.8%	28.9%	20.0%	0.0%
高年層	67	7.5%	13.4%	4.5%	9.0%	38.8%	17.9%	6.0%	3.0%
合計	123	4.9%	8.1%	6.5%	13.0%	30.1%	25.2%	10.6%	1.6%

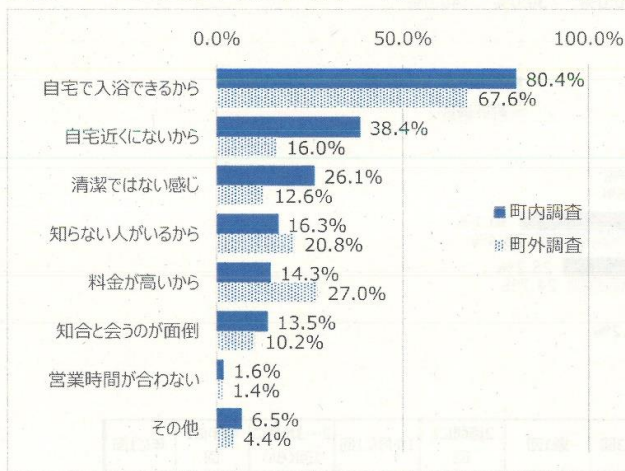
⑧入浴施設に行かない理由

入浴施設未経験者に利用しない理由を尋ねた(図表 3-9)。「自宅で入浴できるから」(80%)と際立って高くなっており、入浴施設に特別感を求めていることがうかがえる。こういった層が大多数を占めているとなると、現在、入浴施設に行っていない層を呼び込むことはかなり困難を伴うと予想される。「自宅近くにないから」(38%)といった交通利便性を挙げる意見が続いた。また、「清潔ではない感じがする」も26%と1/4を占め、個人の印象とは言え、こうしたイメージがあることで入浴施設利用の阻害要因になっていることには留意すべきである。

町外調査では、「料金が安いから」といった経済的な要因を挙げる割合が比較的高い。とここで、「自宅近くにないから」といった理由を挙げる割合は、町内調査よりもかなり低くなっており、交通利便性はさほど問題視されていないようである。

年代別では、「知らない人と一緒に入浴するのは嫌だから」(全体 16%, 若年層 29%), 「知り合いと会うのが面倒だから」(全体 14%, 若年層 33%)といった他人の目を気にする若年層特有の忌避理由が挙げられており、留意しておきたい。中年層では「料金が安い」(31%)とやや目立った割合で挙げられている。

図表 3-9 入浴施設未利用経験者が利用しない理由(複数回答)



年代区分	層	N数	自宅で入浴できるから	自宅近くにないから	清潔ではない感じがするから	知らない人と一緒に入浴するのは嫌だから	料金が安いから	知り合いと会うのが面倒だから	入浴したい日や時間に営業していないから	その他
若中高年代区分	若年層	21	85.7%	33.3%	19.0%	28.6%	14.3%	33.3%	4.8%	4.8%
	中年層	52	78.8%	36.5%	23.1%	9.6%	30.8%	11.5%	1.9%	1.9%
	高年層	172	80.2%	39.5%	27.9%	16.9%	9.3%	11.6%	1.2%	8.1%
	合計	245	80.4%	38.4%	26.1%	16.3%	14.3%	13.5%	1.6%	6.5%

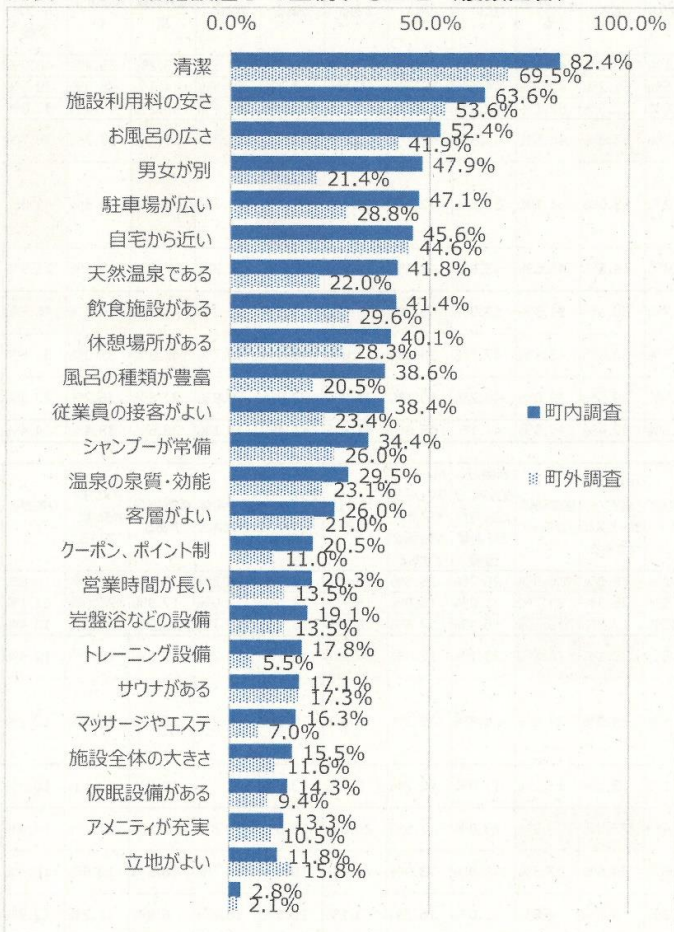
⑨入浴施設選びで重視する点

入浴施設利用有無に関わらず全員に対して、施設選びの重視点を複数回答で挙げてもらった(図表 3-10)。「清潔」が82%と最も気にされている。続いて「安さ」64%が高いが、利用料に関わる「クーポン・ポイント制」は21%とさほど高いわけではない。額面上の価格の安さが決め手になりうることには留意したい。続いて「男女が別」(48%)、「駐車場の広さ」(47%)、「自宅から近い」(46%)が続く。

入浴の基本スペックとなる「天然温泉」(42%)、「風呂の種類が豊富」(39%)、「温泉の泉質・効能」(30%)、付帯設備である「飲食施設」(41%)、「休憩場所」(40%)、サービス面では「従業員の接客がよい」(38%)、「シャンプーが常備」(34%)といった項目が比較的高い割合で重視されるものになっている。

町外との比較では、下位の「サウナがある」(町内 17.1%<町外 17.3%)、「立地がよい」(町内 12%<町外 16%)以外、町内の首肯率が高いものばかりで、町民は入浴施設に選ぶについては、要求水準が高くなっていることがうかがえる。町内と町外で差が大きいのは、男女が別(町内 48%>町外 21%)、天然温泉(町内 42%>町外 22%)、風呂の種類が豊富(39%>21%)などとなっている。

図表 3-10 入浴施設選びで重視すること(複数回答)



重視する点上位（40%）では、属性別、意向別ではあまり大きな差が生じておらず、あらゆる人から求められている点であると理解できる。

年代別では、若年層では「自宅に近い」（34%）、「天然温泉である」（26%）、「温泉の泉質・効能」（20%）といった点での割合が目立って低い点である。むしろ、「営業時間が長い」（37%）、「アメニティの充実」（28%）、「クーポン・ポイント」（26%）、「広さ」（26%）、などで他年代よりも高い首肯率であり、若年層特有で気にしているポイントとなっているようである。「アメニティの充実」については、中年層でも21%となっているが、中年層では「施設利用料の安さ」（69%）を除けば、特徴的な重視ポイントはさほど多くない。

現在、利用している人は重視割合が高い項目が多いが、特に「風呂の大きさ」64%、「風呂の種類」53%、「サウナがある」37%などの設備面での重視割合が特に高い。「飲食施設がある」は、現在利用あり、過去利用だが現在使用なしでも48%と同程度で重視されている項目である。利用回数を増やしたいという層でも多くの項目で重視割合が高くなっているが、「自宅から近い」（57%）、「飲食施設がある」（54%）などとなっている。

図表 3-10 入浴施設選びで重視すること（複数回答）

		N数	清潔	施設利用料の安さ	お風呂の広さ	男女が別になっている	駐車場が広い	自宅から近い	天然温泉である	飲食施設がある	休憩場所がある	お風呂の種類が豊富	従業員の接客がよい	シャンプーやボディソープが常備
若中高年代区分	若年層	65	86.2%	63.1%	53.8%	43.1%	46.2%	33.8%	26.2%	38.5%	38.5%	46.2%	35.4%	40.0%
	中年層	162	84.0%	68.5%	51.2%	43.2%	44.4%	45.7%	40.1%	43.2%	39.5%	44.4%	38.3%	39.5%
	高年層	366	82.0%	62.6%	53.6%	51.1%	48.9%	47.3%	44.0%	40.7%	40.4%	35.2%	40.4%	32.0%
問2.入浴施設利用の有無	現在利用している	121	81.0%	65.3%	63.6%	40.5%	45.5%	47.1%	47.9%	47.9%	46.3%	52.9%	32.2%	39.7%
	過去に利用していたが、現在は利用なし	229	82.5%	67.2%	55.0%	51.1%	51.5%	42.8%	42.4%	47.6%	43.7%	46.3%	39.3%	41.0%
	利用したことがない	251	82.9%	59.4%	44.6%	48.6%	43.8%	47.4%	38.2%	32.7%	33.9%	24.7%	40.6%	25.9%
問2.今後の利用意向	利用回数を増やしたい	187	86.6%	71.7%	58.3%	51.3%	52.9%	56.7%	50.3%	53.5%	50.3%	46.5%	46.5%	46.5%
	同じ頻度で利用したい	216	78.7%	65.7%	56.5%	43.5%	47.7%	38.9%	38.9%	49.5%	40.7%	46.3%	31.9%	35.6%
	今後も利用しない	147	84.4%	56.5%	39.5%	49.0%	44.2%	40.1%	34.7%	23.8%	29.9%	21.8%	36.7%	22.4%
	合計	601	82.4%	63.6%	52.4%	47.9%	47.1%	45.6%	41.8%	41.4%	40.1%	38.6%	38.4%	34.4%

		N数	温泉の泉質・効能	客層がよい	クーポン、ポイントサービスなどがある	営業時間が長い	岩盤浴、ゲルマニウム温浴など特別な設備	トレーニングマシンやスポーツ設備などがある	サウナがある	マッサージやエステなどがある	施設全体の大きさ	仮眠設備がある	アメニティが充実している	立地がよい
若中高年代区分	若年層	65	20.0%	29.2%	26.2%	36.9%	26.2%	18.5%	16.9%	12.3%	26.2%	9.2%	27.7%	10.8%
	中年層	162	30.9%	30.9%	25.3%	24.7%	21.0%	16.0%	16.7%	21.0%	17.9%	17.9%	21.0%	11.1%
	高年層	366	30.9%	23.5%	17.8%	15.6%	16.4%	17.8%	18.0%	15.0%	13.7%	13.9%	7.9%	13.4%
問2.入浴施設利用の有無	現在利用している	121	31.4%	24.8%	28.1%	28.1%	23.1%	12.4%	37.2%	18.2%	18.2%	19.0%	10.7%	12.4%
	過去に利用していたが、現在は利用なし	229	27.9%	27.5%	24.0%	24.0%	18.3%	15.3%	14.8%	18.3%	16.2%	16.6%	15.3%	12.7%
	利用したことがない	251	29.9%	25.1%	13.5%	13.1%	17.9%	22.7%	9.6%	13.5%	13.5%	10.0%	12.7%	10.8%
問2.今後の利用意向	利用回数を増やしたい	187	35.3%	29.4%	27.8%	27.3%	23.0%	22.5%	20.3%	15.5%	19.8%	17.1%	17.1%	14.4%
	同じ頻度で利用したい	216	30.6%	23.6%	24.5%	27.3%	19.9%	13.9%	24.1%	19.9%	18.1%	18.5%	13.9%	10.6%
	今後も利用しない	147	21.1%	25.2%	8.2%	4.8%	15.0%	16.3%	6.1%	10.9%	10.9%	6.8%	10.2%	12.9%
	合計	601	29.5%	26.0%	20.5%	20.3%	19.1%	17.8%	17.1%	16.3%	15.5%	14.3%	13.3%	11.8%

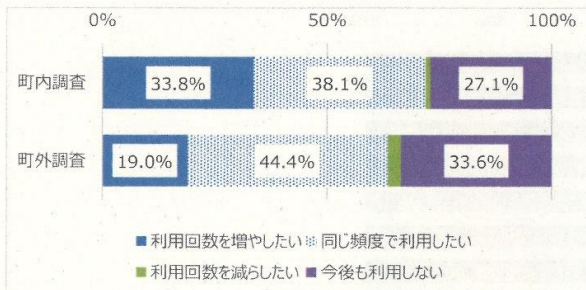
⑩入浴施設の今後の利用意向

今後の利用意向(図表 3-11)については、「利用回数を増やしたい」が34%と全体の1/3を占めている。この数値は町外者の意向(19%)と比較をすると、かなり高いということがわかる。

過去利用経験あり、現在利用していない人の4割近くが増やしたいとの意向を持っている点に注目しておきたい。さらに「利用したことがない」未経験者のうち、28%が増やしたいとの考えを持っており、どのように働きかけをしていくのか問われる。

全体としては「同じ頻度で利用したい」とする意見が38%と多数派となっている。利用回数を減らしたいはほとんどいない。今後も利用しないは27%とかなり高い割合で存在し、特に未経験者のうちでも6割近くが今後も使用意向はないとしており、こういった人に利用意向を持たせるのはかなり困難と思われる。

図表 3-11 入浴施設についての今後の利用意向(単数回答)



			利用回数を増やしたい	同じ頻度で利用したい	利用回数を減らしたい	今後も利用しない
年代10 歳刻み	20代	24	20.8%	70.8%	0.0%	8.3%
	30代	40	27.5%	37.5%	0.0%	35.0%
	40代	74	48.6%	35.1%	1.4%	14.9%
	50代	87	49.4%	41.4%	0.0%	9.2%
	60代	157	28.7%	39.5%	1.9%	29.9%
	70代	165	27.3%	35.2%	1.2%	36.4%
問2.入 浴施設 利用の 有無	現在利用している	117	36.8%	62.4%	0.0%	.9%
	過去に利用していたが、現在は利用していない	221	38.0%	48.9%	2.7%	10.4%
	利用したことがない	219	27.9%	14.2%	0.0%	58.0%
	合計	557	33.8%	38.1%	1.1%	27.1%

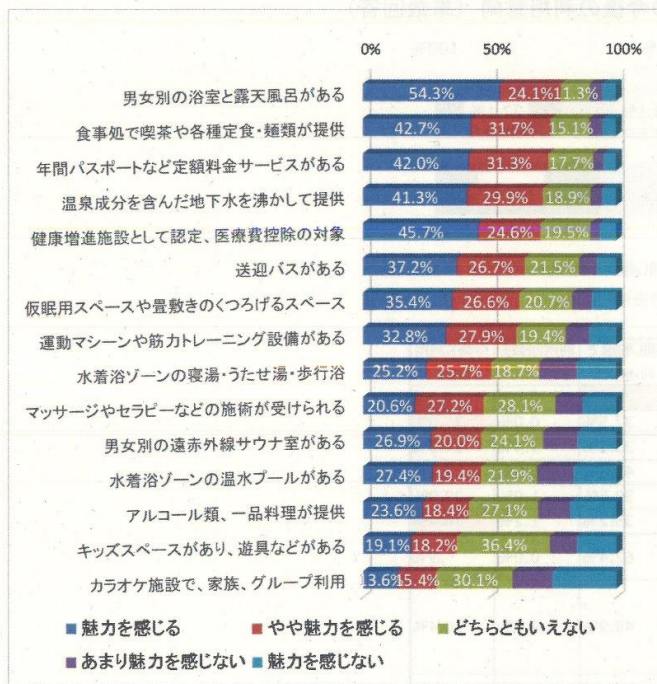
4. 利根町に入浴施設ができた場合の受容度合い

①利根町に入浴施設が出来た場合の特色ごとの魅力度

最も魅力があるとされたのは、「男女別の浴室と露天風呂」78%、「食事処での喫茶や各種定食・麺類の提供」74%、「年間パスポートなど定額料金サービス」73%、「温泉成分を含んだ地下水を沸かして提供」71%、「健康増進施設として認定、医療費控除の対象」70%といった項目で7割を超える人から魅力を感じるとされた。続いて、6割台では「送迎バス」(64%)、「仮眠用スペースや畳敷きのくつろげるスペース」62%、「運動マシンや筋力トレーニング設備」61%が続いている。

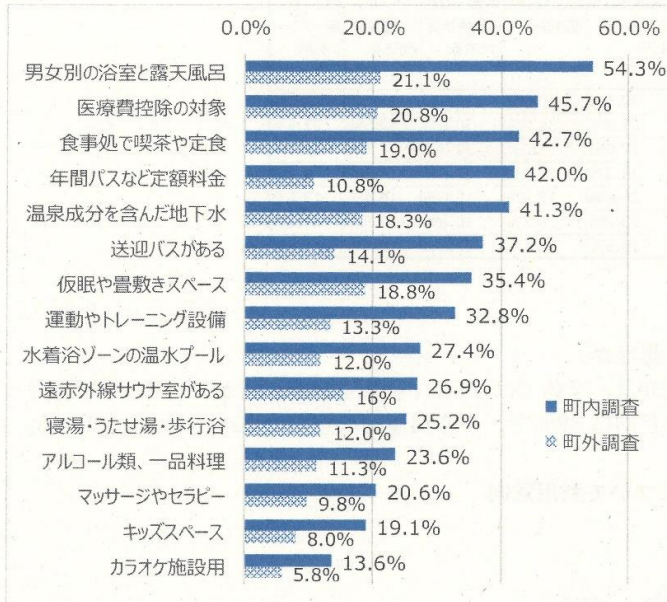
逆にキッズスペースやカラオケ設備について魅力を感じる度合いは低い結果となった。

図表 4-1 それぞれの項目についての魅力度合い



「魅力を感じる」との回答割合でのランキングが図表 4-2 である。「男女別の浴室と露天風呂」が最多で過半数となっている。「健康増進施設として認定、医療費控除の対象」は46%と半数近くの人から挙げられるなど、魅力アピールの際には強い訴求ワードになりうる。

図表 4-2 それぞれの項目に「魅力を感じる」人の割合（単数回答）⁴



年代別に「魅力を感じる」項目について特徴を見てみると、20代において、魅力があるものとして、「食事処」56%、「仮眠スペースや畳敷き」52%、「運動マシンや筋力トレーニング」44%、「アルコールの提供」40%、「温水プール」36%などとなっており、ワンストップで多用途なアクティビティが体験できる総合アミューズメント施設に近いものとして認識しているようである。30代では、「温泉成分」50%が全年代で最も高く本物志向が見られる他、子育て世代特有の傾向として「キッズスペース」なども高い首肯率となっている。40代では「年間パスポート」51%などコストパフォーマンス重視の傾向、50代では「男女別の浴室と露天風呂」64%、「サウナ室」37%などが高い割合で首肯されている。

なお、60代、70代では高い魅力度合いについて特徴ある傾向を示す項目がないことが特色であると言える。これら提示した項目について、さほど強い魅力やこだわりを感じるということではないようである。

図表 4-3 入浴施設についての魅力がある項目（「魅力を感じる」との回答割合）

		男女別の浴室と露天風呂がある	健康増進施設として認定、医療費控除の対象	食事処で喫茶や各種定食・麺類が提供	年間バスポートなど定額料金サービスがある	温泉成分を含んだ地下水を沸かして提供	送迎バスがある	仮眠スペースや畳敷きのくろげるスペース	運動マシンや筋力トレーニング設備
年代10 歳刻み	20代	52.0%	44.0%	56.0%	40.0%	33.3%	33.3%	52.0%	44.0%
	30代	70.0%	50.0%	47.5%	30.0%	50.0%	22.5%	30.0%	38.5%
	40代	58.7%	45.3%	46.7%	50.7%	32.9%	36.5%	36.5%	38.7%
	50代	64.4%	34.5%	44.8%	42.5%	44.8%	37.9%	42.5%	35.6%
	60代	49.1%	50.0%	42.4%	44.0%	40.5%	40.7%	36.3%	32.5%
	70代	48.6%	46.3%	37.2%	39.0%	41.9%	37.4%	29.0%	26.0%
	合計	54.3%	45.7%	42.7%	42.0%	41.3%	37.2%	35.4%	32.8%

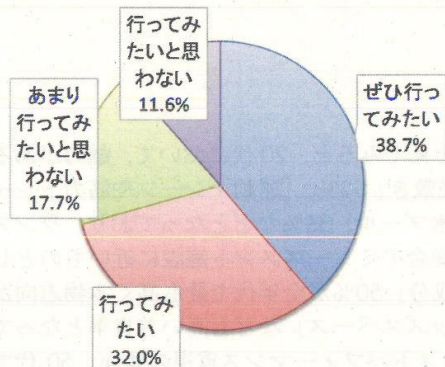
⁴ 図表 4-2 中には、町外調査の結果も図示している。町外調査は魅力有無の選択肢に中間項目として「どちらもとれない」が入っているなど、測定方法が異なるために参考値。

		水着浴 ゾーンの温 水プールが ある	男女別の選 赤外線サウ ナ室がある	水着浴ゾ ンの理湯・う たせ湯・歩 行浴	アルコール 類、一品料 理が提供	マッサージや セラピーなど の施術が受 けられる	キッズ ベースがあ り、遊具な どがある	カラオケ施 設で、家 族、グルー プ利用
年代10 歳刻み	20代	36.0%	28.0%	20.0%	40.0%	28.0%	25.0%	24.0%
	30代	22.5%	30.0%	25.0%	35.0%	30.0%	47.5%	22.5%
	40代	28.0%	35.1%	27.0%	35.6%	37.3%	27.0%	10.8%
	50代	32.2%	36.8%	23.3%	29.9%	27.6%	14.1%	8.1%
	60代	24.1%	20.6%	26.6%	17.9%	16.6%	16.4%	13.5%
	70代	27.6%	23.5%	23.7%	16.3%	10.8%	12.8%	14.2%
	合計	27.4%	26.9%	25.5%	23.6%	20.6%	19.1%	13.6%

②利用意向（行ってみたいと思うか）

町の施設についての利用意向は、全体では71%で利用意向が示されている。「ぜひ行ってみたい」といった積極的な意向は39%で、やや消極的な意向の32%を上回っている。

図表 4-4 利根町の入浴施設について利用意向



属性別傾向として、性別では男性で積極的な意向 46%で多数派となっており、利用意向計では 74%。女性では消極的な意向 37%がマジョリティであり、「行ってみたいと思わない」とする非意向も 12%という。

年代別では、50代の意向が 82%と高く、それ以外の年代ではおおむね 7割程度である。ただし、70代では意向計が 67%に留まっている点には留意しておきたい。

居住地区別では、布川地区での積極利用意向がやや高くみられるが (43%)、もえぎ野台地区での利用意向計は 84%と高い。文間地区の非意向計で 5割近くに達しており、意向の低さが目を引く。

入浴施設利用者では 58%が積極利用意向を示している。同様に今後入浴施設の利用回数を増やしたい意向を持つものでは、63%が積極利用意向を示している。この層では、利用意向計が 94%と非常に高率になっている点は特筆に値する。利用経験なし、今度も利用しない層では、利用意向も低く、受け入れられないと思われる。

入浴施設未利用者および今度も非意向という層では、利用意向は当然低くなることは想定され、非利用意向のコア層を構成するが、それ以外では総じて非利用意向についての目立った属性別要因も見られない。この点から言えば、施設についての利用意向は総じて高いものと思われる。なお、70代の非利用意向は、利用経験の低さ、今後の非意向が関係しているものと思われる。

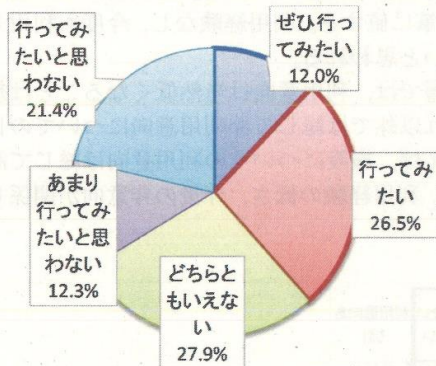
		N数	ぜひ行って みたい	行ってみたい	あまり行って みたいと思 わない	行ってみたい と思わない	利用意向あ り計
問3.性別	男	263	45.6%	28.1%	16.7%	9.5%	73.8%
	女	338	33.1%	37.0%	17.8%	12.1%	70.1%
年代10 歳刻み	20代	24	37.5%	33.3%	16.7%	12.5%	70.8%
	30代	39	41.0%	30.8%	15.4%	12.8%	71.8%
	40代	78	38.5%	37.2%	15.4%	9.0%	75.6%
	50代	88	44.3%	37.5%	11.4%	6.8%	81.8%
	60代	179	35.2%	34.6%	18.4%	11.7%	69.8%
	70代	192	38.0%	28.6%	20.3%	13.0%	66.7%
問3.お 住まいの 地区	文地区	165	38.2%	32.1%	19.4%	10.3%	70.3%
	布川地区	291	43.3%	31.3%	15.1%	10.3%	74.6%
	文間地区	45	22.2%	28.9%	28.9%	20.0%	51.1%
	東文間地区	46	28.3%	37.0%	23.9%	10.9%	65.2%
	もえぎ野台	50	38.0%	46.0%	8.0%	8.0%	84.0%
問2.入 浴施設 利用の 有無	現在利用し ている	124	58.1%	28.2%	10.5%	3.2%	86.3%
	過去に利 用、現在は 非利用	229	41.0%	35.4%	17.0%	6.6%	76.4%
	利用したこ とがない	256	26.6%	32.8%	21.1%	19.5%	59.4%
問2.今 後の利 用意向	利用回数を 増やしたい	186	62.9%	31.2%	4.8%	1.1%	94.1%
	同じ頻度で 利用したい	210	39.0%	38.6%	16.7%	5.7%	77.6%
	今後も利用 しない	151	9.9%	25.2%	33.1%	31.8%	35.1%
	合計	553	38.7%	32.0%	17.7%	11.6%	70.7%

③ Web 調査結果より 町外から利根町に健康増進施設ができた場合の利用意向

利根町の施設についての利用意向は、全体では39%で利用意向が示されている。町内調査とは異なり、中間的な回答選択肢「どちらとも言えない」があるために一概には比較できないが、利用意向のうち、「ぜひ行ってみたい」とする積極意向の割合は12%と低いことから、前向きな気持ちでの意向はさほど高い割合ではない。

どちらとも言えないという中間的な回答は、28%占めており、条件が揃えば、利用するかもしれないくらいの気持ちである層が3割いる。行ってみたいと思わないは、21%とまとまった割合で存在し、非意向理由と合わせて考察したい。

図表 4-5 町外在住者における利根町の入浴施設について利用意向



属性別傾向として、現在の居住エリア別では、茨城県南東居住者の利用意向計が50%に達している点に注目したい。他3エリアでは、3割台に留まる中では特徴的な数値ではないか。ぜひ行ってみたい積極意向者が19%いることにも留意しておきたい。

年代別では、若年層が意向を示しており、年代が上がるに従って、どちらとも言えないか、非利用意向の割合が高まる傾向がある。50～70代では、どちらとも言えないが3割台をキープしており、条件次第で意向が変わるといった様子見の姿勢がうかがえる。

入浴施設利用者では64%が利用意向を示している。積極利用意向も28%と高い。また過去利用経験ありで、現在利用していない人でも、消極的な意向が示されており、どちらともいない31%と合わせて、条件次第では利用促進につなげる可能性がある。

同様に今後入浴施設の利用回数を増やしたい意向を持つものでは、63%が利用意向を示している。入浴施設利用経験なし、今度も利用しない層では、非利用意向が高い。

利根町訪問経験あり層では、経験なし層と比較しても2倍近い利用傾向が示されており、利根町訪問経験あり＝利根町を含む広域圏での行動している層からは利用意向が示されている。茨城県南東を中心に周辺地域居住者からの利用意向は一定程度見られた。主に車などを使い広域でレジャー・消費活動を営む人たちの中で入浴利用があり、年代は20～40代といった若・中年層での意向がみられる。

		N数	ぜひ行って みたい	行ってみた い	どちらとも いえない	あまり行っ てみたいと 思わない	行ってみた いと思わな い	利用意向 あり計
GROUP グループ	千葉県東葛	200	8.0%	24.0%	31.5%	12.0%	24.5%	32.0%
	千葉県印旛	200	10.5%	23.5%	25.0%	17.0%	24.0%	34.0%
	茨城県南西	200	11.0%	27.0%	34.0%	9.0%	19.0%	38.0%
	茨城県南東	200	18.5%	31.5%	21.0%	11.0%	18.0%	50.0%
年代10 歳刻み	20代	32	25.0%	28.1%	15.6%	6.3%	25.0%	53.1%
	30代	90	15.6%	28.9%	24.4%	13.3%	17.8%	44.4%
	40代	176	13.1%	30.1%	22.7%	9.1%	25.0%	43.2%
	50代	215	9.8%	24.7%	30.2%	11.2%	24.2%	34.4%
	60代	187	9.1%	28.3%	32.6%	15.0%	15.0%	37.4%
	70代	100	13.0%	18.0%	30.0%	16.0%	23.0%	31.0%
Q2_2 入浴施設利用 の有無	現在利用して いる	162	28.4%	35.2%	20.4%	7.4%	8.6%	63.6%
	過去に利用し ていたが、現 在は利用して いない	345	11.9%	35.1%	31.3%	10.4%	11.3%	47.0%
	利用したこと がない	293	3.1%	11.6%	28.0%	17.1%	40.3%	14.7%
Q2_10 問2.今 後の利用 意向	これまでより 利用回数を 増やしたい	152	25.0%	38.2%	25.7%	5.9%	5.3%	63.2%
	これまでと同じ 頻度で利用し たい	355	14.6%	36.3%	29.3%	12.4%	7.3%	51.0%
	これまでより 利用回数を 減らしたい	24	4.2%	29.2%	50.0%	12.5%	4.2%	33.3%
	今後とも利用 しない	269	1.9%	6.7%	25.3%	15.6%	50.6%	8.6%
Q3_3 利根町 の訪問 経	行ったことがあ る	364	18.7%	33.2%	28.3%	9.1%	10.7%	51.9%
	行ったことがな い	436	6.4%	20.9%	27.5%	14.9%	30.3%	27.3%
	合計	800	12.0%	26.5%	27.9%	12.3%	21.4%	38.5%

④個別の魅力要素が利用意向につながったのか

Q3_1で掲げた15の特色ワードがどのように利根町の健康増進施設の興味喚起(Q3_2)につながったのかについて、《重回帰分析》を行った。ここでは、こういった魅力キーワードが健康増進施設への興味喚起（「ぜひ行ってみたい」～「行ってみたいと思わない」）に影響を与えたのかといった因果関係を数学的なモデルを使用して推定することができる。

利根町在住の全体サンプル（631サンプル）では、規程力が強い順に、「年間パスポートなど定額料金サービスがある」「温泉成分を含んだ地下水を沸かして提供」「食事処で喫茶や各種定食・麺類が提供」「男女別の浴室と露天風呂がある」「仮眠用スペースや畳敷きのくつろげるスペース」という結果になった。

逆にあまり規程力を持たない＝魅力が来場意向につながっていないものとしては、図表の下位にある「水着浴ゾーンの寝湯・うたせ湯・歩行浴」「キッズスペースがあり、遊具などがある」「アルコール類、一品料理が提供」「送迎バスがある」「カラオケ施設で、家族、グループ利用」といったものになっている。

図表 4-6 町民調査 入浴施設について利用意向と各項目の魅力度との重回帰分析

	標準化されていない係数		数 ベータ	t	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差				許容度	VIF
(定数)	.520	.114		4.567	.000		
年間パスポートなど定額料金サービスがある	.203	.044	.231	4.595	.000	.446	2.240
温泉成分を含んだ地下水を沸かして提供	.145	.038	.166	3.866	.000	.608	1.645
食事処で喫茶や各種定食・麺類が提供	.143	.045	.162	3.165	.002	.428	2.337
男女別の浴室と露天風呂がある	.100	.039	.119	2.592	.010	.534	1.874
仮眠用スペースや畳敷きのくつろげるスペース	.086	.036	.112	2.356	.019	.496	2.017
運動マシンや筋カトレーニング設備がある	.062	.031	.083	2.012	.045	.668	1.496
男女別の遠赤外線サウナ室がある	.043	.028	.060	1.527	.127	.734	1.363
健康増進施設として認定、医療費控除の対象	.042	.039	.050	1.060	.290	.505	1.981
水着浴ゾーンの温水プールがある	.029	.038	.042	.771	.441	.374	2.677
マッサージやセラピーなどの	.001	.033	.001	.032	.975	.618	1.618
カラオケ施設で、家族、グループ利用	-.009	.031	-.012	-.275	.783	.631	1.584
送迎バスがある	-.017	.036	-.021	-.464	.643	.569	1.758
アルコール類、一品料理が提供	-.020	.031	-.028	-.645	.520	.595	1.681
キッズスペースがあり、遊具などがある	-.023	.032	-.030	-.719	.472	.657	1.522
水着浴ゾーンの寝湯・うたせ湯・歩行浴	-.053	.039	-.076	-1.376	.170	.372	2.688

なお、年代ごとによっても、重回帰分析を行い、図表 4-7 のような結果を得ている。

年代によって魅力度が若干異なっている。同一項目は、食事処と年間パスポートである。これは年代間わずに魅力度として利用意向に影響を与えたものとして理解できる。

若年層特有のものとしては、施設や設備系が関わっている。仮眠用スペースと畳敷き、食事処、カラオケ施設、遠赤外線サウナ、男女別の浴室と露天風呂などとなっている。

中年層では、他年代にない、温水プールが関わっている。温泉成分については高年層と共通するものである。それ以外は、若年層、高年層との共通項目が多い。

高年層では、運動マシーンや筋力トレーニング設備が挙げられている。試しに 60 代、70 代それぞれを母集団に重回帰分析を行ったが、運動マシーンや筋力トレーニング設備の規定力が高い結果が得られたのは、60 代であった。

図表 4-7 年代別の入浴施設について利用意向と各項目の魅力度との重回帰分析

若年	標準化係数
仮眠用スペースや畳敷きのくつろげるスペース	0.309
食事処で喫茶や各種定食・麺類が提供	0.298
カラオケ施設で、家族、グループ利用	0.260
年間パスポートなど定額料金サービスがある	0.249
男女別の遠赤外線サウナ室がある	0.154
男女別の浴室と露天風呂がある	0.107
中年	標準化係数
水着浴ゾーンの温水プールがある	0.331
食事処で喫茶や各種定食・麺類が提供	0.248
温泉成分を含んだ地下水を沸かして提供	0.246
年間パスポートなど定額料金サービスがある	0.221
仮眠用スペースや畳敷きのくつろげるスペース	0.187
高年	標準化係数
年間パスポートなど定額料金サービスがある	0.256
温泉成分を含んだ地下水を沸かして提供	0.190
男女別の浴室と露天風呂がある	0.185
食事処で喫茶や各種定食・麺類が提供	0.165
運動マシーンや筋力トレーニング設備	0.122

⑤町外調査対象者が感じた魅力と利用意向のつながり

町外在住者で同様に重回帰分析を行った。規程力が強い順に、「男女別の浴室と露天風呂がある」「仮眠用スペースや畳敷きのくつろげるスペース」「年間パスポートなど定額料金サービスがある」「温泉成分を含んだ地下水を沸かして提供」「健康増進施設として認定、医療費控除の対象」といったものが挙げられる。

逆に規程力の弱いのは、「運動マシンや筋力トレーニング設備がある」「マッサージやセラピーなどの施術が受けられる」「送迎バスがある」「男女別の遠赤外線サウナ室がある」「水着浴ゾーンの寝湯・うたせ湯・歩行浴」といった順である。これらが付帯設備・サービスになっけていても、あまり来場促進には関わらない要素と考えられる。

図表 4-8 Web 調査結果より 利根町施設について利用意向と各魅力度との重回帰分析

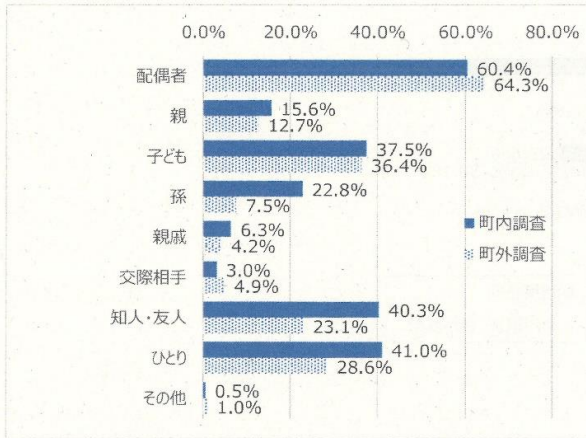
	標準化されていない係数		数		有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差	ベータ	t		許容度	VIF
(定数)	.773	.117		6.616	.000		
男女別の浴室と露天風呂がある	.244	.055	.238	4.463	.000	.227	4.414
仮眠用スペースや畳敷きのくつろげるスペース	.164	.060	.157	2.748	.006	.197	5.063
年間パスポートなど定額料金サービスがある	.168	.054	.149	3.087	.002	.274	3.647
温泉成分を含んだ地下水を沸かして提供	.130	.051	.124	2.552	.011	.274	3.647
健康増進施設として認定、医療費控除の対象	.118	.048	.116	2.448	.015	.288	3.466
水着浴ゾーンの温水プールがある	.091	.059	.086	1.530	.127	.202	4.950
食事処で喫茶や各種定食・麺類が提供	.083	.064	.079	1.311	.190	.177	5.643
アルコール類、一品料理が提供	.036	.043	.034	.833	.405	.383	2.612
キッズスペースがあり、遊具などがある	.035	.044	.031	.781	.435	.399	2.504
カラオケ施設で、家族、グループ利用	.002	.043	.002	.058	.953	.459	2.180
水着浴ゾーンの寝湯・うたせ湯・歩行浴	-.028	.060	-.027	-.470	.639	.198	5.051
男女別の遠赤外線サウナ室がある	-.033	.051	-.032	-.645	.519	.263	3.797
送迎バスがある	-.045	.044	-.042	-1.034	.301	.393	2.546
マッサージやセラピーなどの施術が受けられる	-.064	.051	-.057	-1.247	.213	.306	3.264
運動マシンや筋力トレーニング設備がある	-.069	.048	-.066	-1.430	.153	.306	3.269

⑥誰と入浴施設に行くのか

同行者としては、配偶者が最も多く（60%）、続いて知人・友人（40%）、子ども（38%）などとなっている。若年層では知人・友人53%が最も高い割合で挙げられているが、続いて親（42%）、子ども（44%）、交際相手（13%）も首肯率が高くなっている。未婚／既婚／子育てなどライフステージによって、同行者が大きく異なっていると推定される。中年になると、ひとりが50%といった、個人で楽しむような入浴スタイルが現れて来る。

高年層では、配偶者（64%）や孫（33%）などが高くなる。入浴施設利用ありでは、配偶者（65%）が想定されている。今後回数を増やしたいでは、配偶者67%、子ども43%などの特色がみられる。

図表 4-9 誰と行くのか



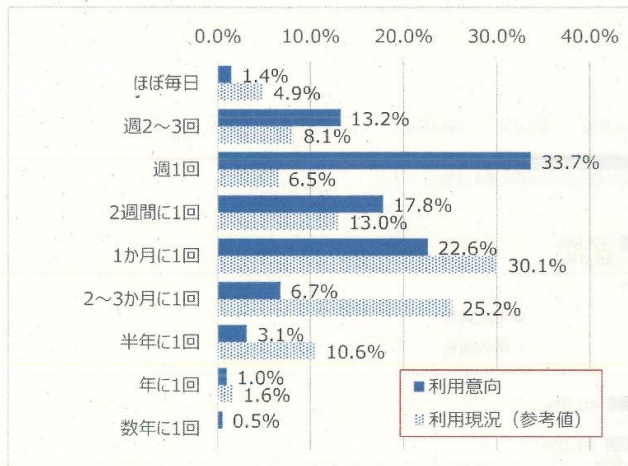
		N数	配偶者	親	子ども	孫	親戚	交際相手	知人・友人	ひとり	その他
若中高 年代区 分	若年層	45	42.2%	42.2%	44.4%	2.2%	6.7%	13.3%	53.3%	42.2%	0.0%
	中年層	131	58.8%	30.5%	47.3%	9.9%	6.9%	4.6%	34.4%	50.4%	0.0%
	高年層	250	64.4%	3.6%	31.6%	33.2%	5.6%	.4%	40.0%	35.6%	.8%
問2.入 浴施設 利用の 有無	現在利用している	107	64.5%	14.0%	40.2%	22.4%	4.7%	4.7%	42.1%	44.9%	.9%
	過去に利用していたが、現在は利用していない	173	58.4%	19.7%	40.5%	19.1%	11.0%	3.5%	38.2%	40.5%	0.0%
	利用したことがない	149	59.7%	12.1%	32.2%	27.5%	2.0%	1.3%	41.6%	38.9%	.7%
問2.今 後の利 用意向	利用回数を増やしたい	175	66.9%	18.3%	42.9%	20.6%	8.0%	4.0%	40.0%	44.0%	0.0%
	同じ頻度で利用したい	162	54.3%	16.0%	35.8%	22.2%	5.6%	3.1%	41.4%	43.8%	.6%
	今後も利用しない	50	60.0%	16.0%	32.0%	26.0%	4.0%	2.0%	44.0%	24.0%	2.0%
合計		429	60.4%	15.6%	37.5%	22.8%	6.3%	3.0%	40.3%	41.0%	.5%

⑦施設利用の頻度

町の健康増進施設の利用意向者における利用頻度であるが、全体では、週1回が34%と1/3を占めており、ほぼ毎日(1%)、週2~3回(13%)含めて、週1回以上との回答が全体の半数近くになっている(48%)。

特に男性では、週1回が39%、週1回以上が53%と過半数に達するなどヘビーユーザー層の構成要件となっている。

図表 4-10 施設利用頻度



年代別で見ると、若年層(サンプル希少につき参考値)30代、40代、50代と、年代とともに週1回以上の割合が上昇し、60、70代では、週1回以上が5割台後半となる。30代は、2~3か月に1回(25%)、半年に1回が14%と、この2カテゴリー形で40%となっており、それより上の年代よりも、利用頻度の見込みを低く見積もっている。

居住地区別では、文、布川、文間地区では、週1回以上が過半数であるが、東文間地区では38%、もえぎ野台では22%とかなり少数に限られる。東文間では、2週間に1回+1か月に1回合わせて5割を超えており、またもえぎ野台は、1か月に1回が37%と、先に触れた3か所に比べると頻度が低い方だと思われる。

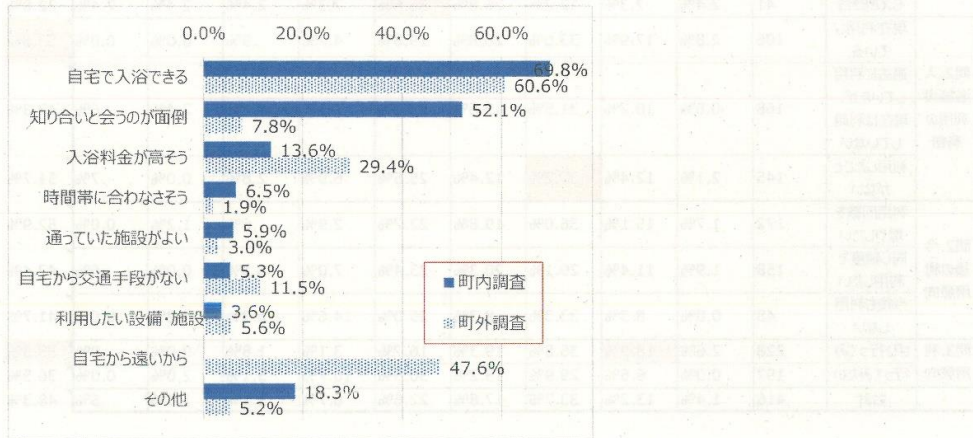
利用有無別に言えば、現在利用者では、週1回以上が54%、利用回数を増やしたいでは53%。利用意向の程度別では、「ぜひ行ってみたい」では、週2~3回が19%、週1回以上は58%となっており、「行ってみたい」よりも比べるとヘビーユースの割合が非常に高いことがわかる。

		N数	ほぼ毎日	週2~3回	週1回	2週間に1回	1か月に1回	2~3か月に1回くらい	半年に1回	年に1回	数年に1回	週1回以上計
問3.性別	男	188	2.7%	10.6%	39.4%	20.2%	18.6%	4.3%	2.1%	1.1%	1.1%	52.7%
	女	229	.4%	15.3%	28.8%	15.7%	26.2%	8.7%	3.9%	.9%	0.0%	44.5%
年代10歳刻み	20代	17	0.0%	5.9%	35.3%	17.6%	17.6%	5.9%	11.8%	0.0%	5.9%	41.2%
	30代	28	0.0%	7.1%	14.3%	14.3%	25.0%	25.0%	14.3%	0.0%	0.0%	21.4%
	40代	58	0.0%	10.3%	20.7%	24.1%	34.5%	8.6%	0.0%	1.7%	0.0%	31.0%
	50代	70	0.0%	12.9%	35.7%	22.9%	20.0%	5.7%	2.9%	0.0%	0.0%	48.6%
	60代	120	1.7%	18.3%	37.5%	17.5%	16.7%	3.3%	2.5%	1.7%	.8%	57.5%
	70代	123	3.3%	12.2%	39.0%	13.0%	24.4%	5.7%	1.6%	.8%	0.0%	54.5%
問3.お住まいの地区	文地区	111	.9%	15.3%	35.1%	15.3%	22.5%	7.2%	3.6%	0.0%	0.0%	51.4%
	布川地区	210	1.4%	12.9%	38.6%	16.7%	19.5%	6.7%	2.9%	1.0%	.5%	52.9%
	文間地区	23	0.0%	21.7%	30.4%	17.4%	17.4%	8.7%	4.3%	0.0%	0.0%	52.2%
	東文間地区	29	3.4%	10.3%	24.1%	24.1%	27.6%	3.4%	3.4%	3.4%	0.0%	37.9%
	もえき野台	41	2.4%	7.3%	12.2%	26.8%	36.6%	7.3%	2.4%	2.4%	2.4%	22.0%
問2.入浴施設利用の有無	現在利用している	106	2.8%	17.9%	33.0%	20.8%	19.8%	4.7%	.9%	0.0%	0.0%	53.8%
	過去に利用していたが、現在は利用していない	168	0.0%	10.7%	31.5%	19.6%	23.8%	7.1%	4.2%	2.4%	.6%	42.3%
	利用したことがない	145	2.1%	12.4%	37.2%	12.4%	25.5%	6.9%	2.8%	0.0%	.7%	51.7%
問2.今後の利用意向	利用回数を増やしたい	172	1.7%	15.1%	36.0%	19.8%	22.7%	2.9%	.6%	1.2%	0.0%	52.9%
	同じ頻度で利用したい	158	1.9%	11.4%	29.1%	20.3%	23.4%	7.0%	6.3%	0.0%	.6%	42.4%
	今後も利用しない	48	0.0%	8.3%	33.3%	8.3%	25.0%	14.6%	6.3%	4.2%	0.0%	41.7%
問3.利用意向	ぜひ行ってみ	228	2.6%	18.9%	36.8%	19.3%	16.7%	3.1%	1.8%	0.0%	.9%	58.3%
	行ってみたい	197	0.0%	6.6%	29.9%	15.2%	30.5%	10.7%	5.1%	2.0%	0.0%	36.5%
	合計	416	1.4%	13.2%	33.7%	17.8%	22.6%	6.7%	3.1%	1.0%	.5%	48.3%

⑧利用意向がない人の行ってみたいとは思わない理由

自宅で入浴ができるが全体の70%で挙げられている。特に高年層(80%)、入浴施設の利用意向なし者では92%に達している。続いて「知り合いと会うのが面倒だから」が52%と過半数いて、こうした傾向は女性57%、若年層83%、中年層70%でも強くみられる。入浴料金が高そうは全体で14%、男性で21%から挙げられている。これまで行っていた入浴施設の方がよいは全体では6%とわずかであるが、中年層で15%、同じ程度利用したいという人でも15%から挙げられており、すでにヘビーユースの場所がある場合には、そちらを今後も続けて通所したいという意向がまとまった数存在していることがわかる。

図表 4-11 町の入浴施設を利用しない理由

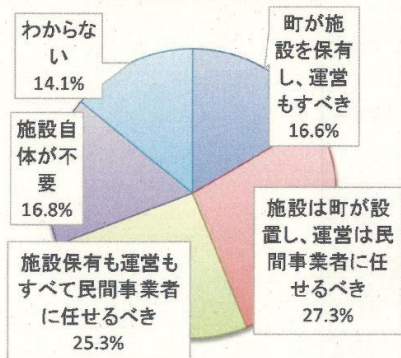


問	性別	N数	理由							
			自宅で入浴できる	知り合いと会うのが面倒だから	入浴料金が高そうだから	入浴したい日や時間帯に合わなそうだから	これまで行っていた入浴施設の方がよいから	自宅から交通手段がない	利用したい設備・施設がない	その他
問3.性別	男	67	62.7%	47.8%	20.9%	10.4%	9.0%	0.0%	3.0%	19.4%
	女	97	72.2%	56.7%	9.3%	4.1%	4.1%	9.3%	4.1%	17.5%
若中高年代区分	若年層	18	44.4%	83.3%	5.6%	0.0%	11.1%	5.6%	0.0%	16.7%
	中年層	33	42.4%	69.7%	12.1%	12.1%	15.2%	9.1%	0.0%	15.2%
	高年層	114	79.8%	43.0%	15.8%	6.1%	2.6%	4.4%	5.3%	19.3%
問2.今後の利用意向	利用回数を増やしたい	9	55.6%	66.7%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%
	同じ頻度で利用したい	46	30.4%	71.7%	15.2%	8.7%	15.2%	6.5%	4.3%	17.4%
	今後も利用しない	95	91.6%	44.2%	14.7%	5.3%	2.1%	6.3%	3.2%	16.8%
	合計	169	69.8%	52.1%	13.6%	6.5%	5.9%	5.3%	3.6%	18.3%

⑨健康増進施設の運営方法やサービスの必要性についての考え

「施設は町が設置し、運営は民間事業者任せ」が27%、「施設保有も運営もすべて民間事業者任せ」が25%とほぼ拮抗する形となった。民営という点で考えれば、過半数である。官設官営である「町が施設を保有し、運営もすべき」は17%と限定的な数値となった。「施設自体は不要」首肯者が17%と少数ながら存在感を示す数字となっている。「わからない」という態度保留者も14%いる。

図表 4-12 健康増進施設の運営方法



「施設は町が設置し、運営は民間事業者任せ」首肯者は、男性（32%）、50代（33%）、現在入浴施設を利用者で35%、利根町施設の積極利用意向者で41%となっている。男性では、「施設保有も運営もすべて民間事業者任せ」について32%が首肯しており、官設民営型との意見と同程度となっている。現在利用者とし利根町施設の積極利用意向者では、官設民営型を推す意見の方が強くなっている。地区別では、文間地区、東文間地区在住者で、民設民営型を支持する割合が最も高い。

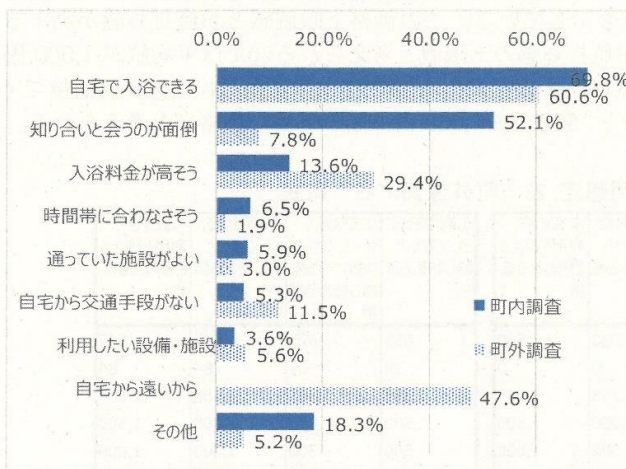
施設自体が不要との見方は、文間地区だけ顕著に高い割合となっている。利根町施設の非利用意向者で高い割合である（「行ってみたいと思わない」で58%の首肯率）。

		N数	町が施設を保有し、運営もすべき	施設は町が設置し、運営は民間事業者任せ	施設保有も運営もすべて民間事業者任せ	施設自体が不要	わからない
問3.性別	男	253	16.6%	32.0%	31.6%	14.2%	5.5%
	女	330	16.4%	23.9%	20.3%	18.5%	20.9%
年代10歳刻み	20代	24	16.7%	29.2%	29.2%	12.5%	12.5%
	30代	38	15.8%	28.9%	15.8%	15.8%	23.7%
	40代	75	16.0%	24.0%	28.0%	14.7%	17.3%
	50代	86	10.5%	32.6%	37.2%	8.1%	11.6%
	60代	176	19.3%	26.7%	23.3%	17.6%	13.1%
	70代	183	16.4%	26.2%	21.9%	21.3%	14.2%
問3.お住まいの地区	文地区	158	16.5%	25.3%	25.3%	15.2%	17.7%
	布川地区	284	18.7%	31.7%	23.2%	15.5%	10.9%
	文間地区	44	9.1%	18.2%	34.1%	27.3%	11.4%
	東文間地区	45	8.9%	20.0%	35.6%	20.0%	15.6%
問2.入浴施設利用の有無	現在利用している	116	16.4%	35.3%	29.3%	8.6%	10.3%
	過去に利用していたが、現在は利用していない	224	18.3%	28.1%	27.2%	13.8%	12.5%
	利用したことがない	252	15.5%	22.2%	22.6%	23.4%	16.3%
問3.利用意向	ぜひ行ってみたい	225	23.6%	40.9%	25.3%	1.3%	8.9%
	行ってみたい	199	19.1%	29.6%	26.1%	8.0%	17.1%
	あまり行ってみたいと思わない	106	4.7%	8.5%	30.2%	39.6%	17.0%
	行ってみたいと思わない	67	4.5%	4.5%	14.9%	58.2%	17.9%
合計	合計	597	16.6%	27.3%	25.3%	16.8%	14.1%

⑩ Web 調査結果より 町外から利根町に健康増進施設の非利用意向

利根町以外の周辺エリアでの利根町施設の利用意向がない理由について尋ねている。最も多かったのは、自宅に入浴できるから（61%）で、わざわざ行き動機につながらないというものであった。次に「自宅から遠いから」が半数近くで挙げられており、エリアでは千葉県東葛居住者で53%、70代では67%から挙げられている。70代にしてみれば、自宅からの遠さが最大の理由になっており、「自宅からの交通手段がない」23%など物理的な距離が問題になっている。一方、若年層では「自宅から遠い」「自宅からの交通手段がない」は、少数に留まっており、交通手段による非意向にはなっていない。30代からは、「利用したい設備・施設がないから」は14%と比較的高い数値になっており、施設・設備面への思いがあるようだ。

図表 4-13 町外住民の利根町施設を利用しない理由



		N数	自宅に入浴できるから	自宅から遠いから	入浴料金が高そうだから	自宅から交通手段がないから	知り合いと会うのが面倒だから	利用したい設備・施設がないから	これまで行ってた入浴施設の方がよから	入浴したい日や時間帯に合わなそうだから	その他
居住エリア	千葉県東葛	73	58.9%	53.4%	23.3%	16.4%	1.4%	9.6%	4.1%	0.0%	5.5%
	千葉県印旛	82	54.9%	46.3%	37.8%	13.4%	11.0%	3.7%	1.2%	1.2%	3.7%
	茨城県南西	56	73.2%	44.6%	26.8%	7.1%	7.1%	5.4%	0.0%	1.8%	3.6%
	茨城県南東	58	58.6%	44.8%	27.6%	6.9%	12.1%	3.4%	6.9%	5.2%	8.6%
年代10歳刻み	20代	10	60.0%	20.0%	30.0%	0.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30代	28	57.1%	28.6%	35.7%	7.1%	3.6%	14.3%	3.6%	0.0%	3.6%
	40代	60	65.0%	38.3%	25.0%	13.3%	6.7%	1.7%	0.0%	0.0%	3.3%
	50代	76	59.2%	52.6%	35.5%	7.9%	6.6%	3.9%	5.3%	3.9%	3.9%
	60代	56	64.3%	51.8%	25.0%	10.7%	7.1%	5.4%	3.6%	1.8%	10.7%
70代	39	53.8%	66.7%	25.6%	23.1%	10.3%	7.7%	2.6%	2.6%	5.1%	
合計	合計	269	60.6%	47.6%	29.4%	11.5%	7.8%	5.6%	3.0%	1.9%	5.2%

5. 費用についての評価

①基本料金プランに対する値段評価

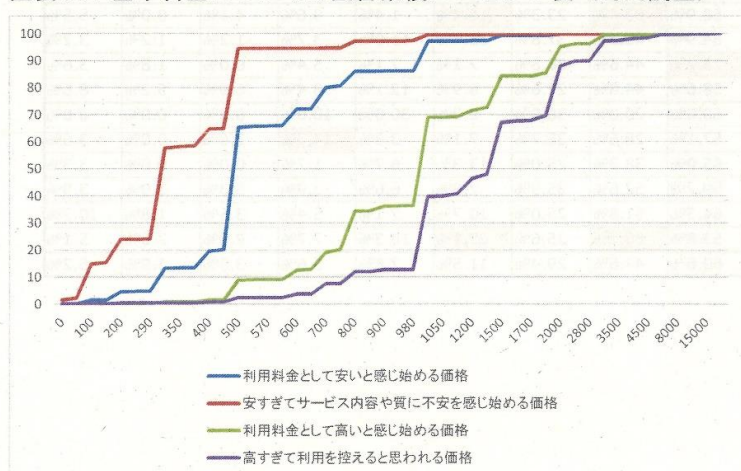
価格の値ごろ感を探るべく、自由記述で、①利用料金として安いと感じ始める価格、②安すぎてサービス内容や質に不安を感じ始める価格、③利用料金として高いと感じ始める価格、④高すぎて利用を控えると思われる価格、それぞれについて、具体的な金額を記述してもらった。それぞれの平均値、中央値、最頻値など統計的指標は図表 5-1 に示した。

町内調査の結果では、②安すぎてサービス内容や質に不安を感じ始める平均値は 365 円となっている。この金額以下では、利用者が安心して利用することが出来ない価格であり、価格下限値と考えられる。一方、価格としてのお値打ち感が示されるのが、①利用料金として安いと感じ始める平均値 594 円、中央値 500 円、最頻値 500 円となっている。積算値グラフ(図表 5-2)では、500 円前後で急激にお値打ち感が上がる。500 円あたりでは、回答者の 9 割が価格下限値の認識を示している。この価格下限値感とお値打ち感が高まる 500 円が一つの目安となろう。お値打ち感の上限値と考えられる③では平均値が 1,000 円で、積算値にこの金額前後に急激に高まる。また価格許容の上限値④も 1,000 円前後で 4 割に達している。以上を踏まえると、500 円～1,000 円の間が妥当な価格域と考えられる。

図表 5-1 基本料金についての費用想定 左：町外住民／右：町民

	①利用料金として安いと感じ始める価格	②安すぎてサービス内容や質に不安を感じ始める価格	③利用料金として高いと感じ始める価格	④高すぎて利用を控えると思われる価格	①利用料金として安いと感じ始める価格	②安すぎてサービス内容や質に不安を感じ始める価格	③利用料金として高いと感じ始める価格	④高すぎて利用を控えると思われる価格
度数 有効数	800	800	800	800	553	527	547	547
度数 欠損値	0	0	0	0	78	104	84	84
平均値	609	317	1,255	1,885	594	365	1,188	1,584
中央値	500	300	1,000	1,500	500	300	1,000	1,500
最頻値	500	300	1,000	1,000	500	300	1,000	1,000
標準偏差	398	233	803	1,531	327	252	908	1,149
最小値	1	0	3	4	100	0	200	200
最大値	5,000	3,000	10,000	25,000	5,000	4,000	15,000	20,000

図表 5-2 基本料金についての回答累積パーセント表 (町内調査)



②付帯的なサービス付きプランに対する値段評価

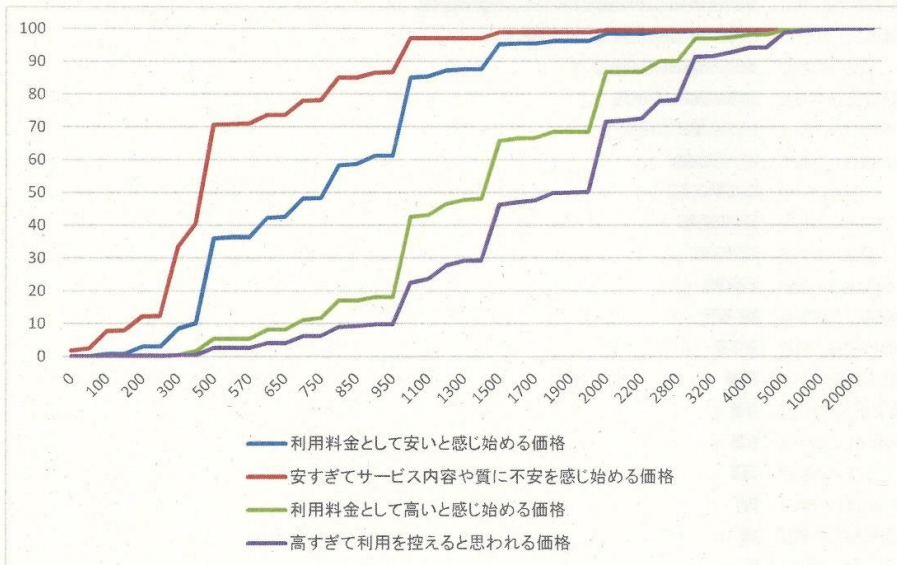
町内調査の結果(図表 5-3)では、①利用料金として安いと感じ始める平均値 880 円、②の価格下限の平均値は 551 円となっている。800 円前後を見ると、②の累積値(図表 5-4)がおおよそ 80%に達しており、安すぎるという感覚を持たれる数値ではない。

この価格下限値感、さらにお値打ち感が半分の人から挙げられている 800 円前後をスタートラインとして、③のお値打ち感の上限平均値は 1,000 円前後に高まり、1,500 円前後でも再び急激な上昇を見せて、累積値が 6 割に達する。価格許容の上限値④も 1,500 円前後で 4 割に達している。以上から 800 円～1,500 円の間が妥当な価格域と考えられる。

図表 5-3 付帯的なサービス付きプラン利用時の費用想定 左：町外住民／右：町民

	①利用料金として安いと感じ始める価格	②安すぎてサービス内容や質に不安を感じ始める価格	③利用料金として高いと感じ始める価格	④高すぎて利用を控えると思われる価格	①利用料金として安いと感じ始める価格	②安すぎてサービス内容や質に不安を感じ始める価格	③利用料金として高いと感じ始める価格	④高すぎて利用を控えると思われる価格
度数 有効数	800	800	800	800	512	493	506	505
度数 欠損値	0	0	0	0	119	138	125	126
平均値	714	395	1,477	2,158	880	551	1,591	2,079
中央値	500	300	1,200	1,800	800	500	1,500	1,980
最頻値	500	300	1,000	2,000	500	500	1,000	2,000
標準偏差	509	311	1,027	1,845	888	512	1,313	1,696
最小値	1	0	3	4	100	0	200	100
最大値	5,000	3,500	10,000	25,000	15,000	8,000	20,000	25,000

図表 5-4 付帯的なサービス付きプラン料金についての回答累積パーセント表(町内調査)



6. 自由回答記述欄への書き込みコメント

①書き込み内容の分類

自由回答に書き込まれた文章（224人が書きこみ）のうち、トピックスを分類した。書き出した全文は、巻末資料に掲載した。

一人の書き込み文章の中には、複数のトピックスが含まれている。

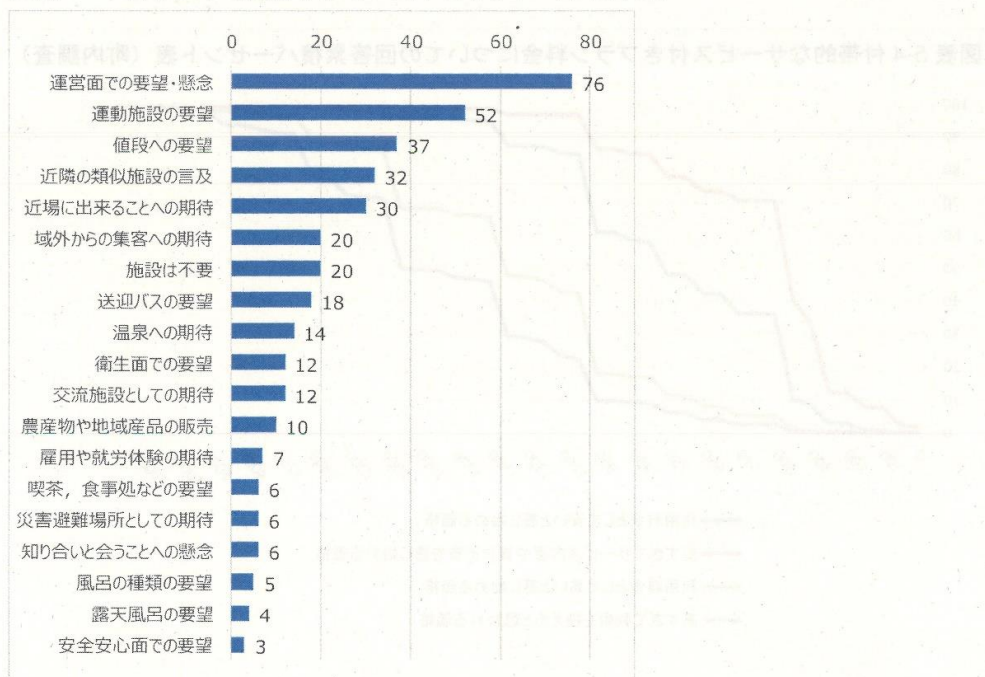
もっと書きこみが多かったのは、運営面での要望や懸念といったもので、76件あった。224人のうち、およそ1/3がこのトピックスに近い内容に触れており、関心の高さがうかがえる。次に、運動施設・設備の要望が52件、値段への要望37件、近隣の類似施設の言及32件、近場に出来ることへの期待30件、域外からの集客やまちの活性化に関わるものが20件、施設は不要としたものが20件などであった。

さらに、送迎バスの要望18件、温泉への期待14件、衛生や清潔面での要望12件、さまざまな人が集まる交流施設としての期待12件、利根町産の農産物や地域産品を販売することへは10件の指摘があった。“知り合いと会うのが面倒”という懸念も6件示された。

20件以上のトピックスについては、次頁から主だったものを、年代、性別、idを付記した上で取り上げている。

なお、idは、通し番号であり、巻末で全文および、①入浴施設の利用経験、②町施設の利用意向、③町施設の設置形態の考え、④性別、⑤年代、⑥居住地区などの回答者の属性や意見と合わせて、確認できるようにしている。”

図表 6-1 書き込みで言及されていたトピックス（単位：件）



②出された主な意見（必要部分を抜粋）

1) 運営面での要望・懸念

設置と運営に関わる要望や経営的に続けていることができるのかといった懸念が示されている。行政が設置するのか、それとも民間業者に任せるのかといった問題についての言及、近隣市に同様の施設が点在していることから、それらとの競合や差別性をもった事業展開ができるのかといった点でのコメントが多くなされている。

既存施設（例えば、龍ヶ崎市の入浴施設）があるので、利根町民でもそれらが安価に利用できたり（利根町が利用に対する補助金を出すなどにより）、アクセスが確保されていればよいのではないかといった意見も複数見られた。

出された主な意見

- ・作っても良いと思うが、サビれた施設になるくらいなら作ってほしくない。千葉や近隣の市に住む人に行ってみようよと思わせられるくらいのもを作ってほしい。“温泉”というより“スパ”の方が古くさくなくて良い。(20代/女性/id:167)
- ・誘致するのは良い事だと思う。仮に町として設置や運営をすれば負の遺産にならないよう慎重に検討する必要があると思う。(20代/男性/id:233)
- ・町の周辺にも同様の施設があるのでそこの差別化、ランニングコストが重要で、中途半端な物はやらない方がいいと思う。(40代/男性/id:515)
- ・財政を踏まえた身の丈に合った施策を。(50代/男性/id:188)
- ・近隣にも同様の施設があるので、運営はむずかしそう。(50代/女性/id:234)
- ・民間にまかせて、なるべく税金は使わない。利根町の利用者だけに、使用料の一部を税金でまかなうだけにする。土地だけ貸して、賃料を得る。施設保有は、税金のむだ使い。運営は、無理。絶対赤字を出す。(60代/女性/id:119)
- ・わざわざ、利根町に作らなくてもいいと思う。利根町は、高齢化していて、だんだん自分だけでは行けなくなるし、入れなくなってしまうから。龍ヶ崎にある、温泉施設に安くしてもらおう事は出来ませんか？(60代/女性/id:502)
- ・1.近くの所（龍ヶ崎等に）利用できるのも、交通手段を自分の車以外でも可能にすると、行く人も増えると思います。2.身近な運動を、もっと町で取り組んで、町の税金を、有効に使った方が良いのではないかと。施設作りには、財政が安定してから検討するのがよいと思います。(70代/男性/id:80)
- ・町の運営で民間に業者に依託しないで営利を目的にせず運営してほしい。(70代/男性/id:395)

2) 運動施設の要望

運動やスポーツができる設備や恒久施設への言及である。具体的には、ジム、トレーニングルーム、温水プールなどを設置してはどうかというものである。トレーナーが常駐し、健康増進へのアドバイスなどを期待する意見もみられた。

出された主な意見

- ・スポーツジムが主なものはあったほうが良いと思う。運動器具やスペース等が充実していれば良い。(30代/女性/id:309)
- ・子育て中の人でも運動したいけど小さい子どもがいてできない人もいるはず。施設を利用している間、施設内に託児所があると良いと思う。(30代/女性/id:66)
- ・手軽に使用できる。ジムのような設備はあったら嬉しい。個人に合ったプログラムなどをトレーナーに考えてもらったら、なおよいと思う。(40代/女性/id:501)
- ・スポーツジム施設を作ってほしい。(40代/女性/id:504)
- ・ジムや岩盤浴やサウナ等は健康増進の目的でリーズナブルであればぜひ利用したいですね。(年配の方でスポーツジムに通っている方も多く、年金生活になるとジムの料金が高くてという声もよく聞きます。(50代/女性/id:534)
- ・取手、龍ヶ崎、印西等まわりには体育館があり、住民が筋トレするような(低料金)施設があるから悲しいかな。この町にはスポーツクラブに入会するしかありません。お年寄のフリフリグッパ等が有名になってきましたが、中年の運動場がないと思います。(50代/女性/id:107)
- ・以前はスポーツジムに通ったりもしたが遠くて続かなかった。身近にプールやジムなど運動できて入浴できる施設があれば是非利用したいと思う。他県、他市では一般料金とは別に市(町)民価格という設定をしている所もあります。(50代/女性/id:94)
- ・前からこういう施設が、利根町にあると良いと思っていました。私の弟も(千葉に住んでいる)近くにこういう施設があり、毎日行っているとの事、体の調子も良くなり、とても良いと言っていました。是非作ってほしいと思います。出来れば、温泉プール、トレーニングルームがあると良いのですが。(60代/女性/id:595)
- ・健康増進施設の中ではお風呂のみでは、あまり人が来ないのではないかと思います。複合施設(飲食、プール、ジム等)であれば、若い人も来るのではないかと思います。(60代/男性/id:496)
- ・何処にでもある様な温泉施設なら近くにもう沢山ある。健康を意識したものに特化して欲しい。シニアでも使用出来るスポーツジム。続ける事が楽しくなる様な内容。例えばランニングマシンなら茨城一周、東京、日本一周等のメニュー。筋力アップなら体力アップなら通帳等。温泉に入り食事、宴会は古いのでは?モダンなカフェでちょっと庭園などがあったら嬉しい。もうひとつ体が不自由でなかなか温泉に行かれない人のための特別な器具を揃えたルーム等どこにもない発想でいい施設を望みます(70代/女性/id:279)
- ・スポーツジムに行っていたのだが、遠いので今は行っていない。利根町内にあれば再開したい。風呂だけだと魅力がないが、健康増進施設があれば行きたい。(70代/男性/id:294)

3) 値段に関わる要望

町民、シニア層は割安な料金で利用できることなどについて、具体的な金額に触れながら述べられている。100～200円、500円といった金額が挙げられている。

一方であまりに安価なものに対する警戒感や長時間居座られることに対して時間を制限した金額設定にすべきだといった意見もみられた。

出された主な意見

- ・土日割引とか、町民割引とかあると良いと思います。(30代/男性/id:235)
- ・高齢の方が多いと思うので、浴場だけ200円で入れるシニア券等あると良いかも知れません。(30代/女性/id:389)
- ・利用料金は利根町民は格安として、町外は割高にしても利用されると思います。(40代/女性/id:231)
- ・町で運営する分安くなるとかなら町で運営でもよいが、あまり質素になったり、サービスがよくないのもあまりよくない。長続きしないと思う。(40代/女性/id:581)
- ・長時間人が居すわる事のない様に2Hくらいの料金にした方が良い(一日中たむろっている人がいると嫌だし、混むし)(40代/男性/id:615)
- ・(入浴)と(プール+ジム)の料金は別々にした方が良い。(50代/男性/id:485)
- ・安い料金で100円か200円位(60代/女性/id:101)
- ・町民 年パス5000円 1回200円位なら度々利用したいです。町外は500円としても、あまり多くは望めないでしょう。筑西600円、あけの700円ですから、ある程度設備整うなら、価格でしょうか。(60代/男性/id:246)
- ・入浴のみだったら税込み440円で、その他利用は100～500円位別料金にすればいいと思います。温泉(天然)がない場合は、トレーニングジムを併設し、込みで440円にすれば良いでしょう。実際、うちの姪っ子は印西市まで毎日のようにダイエット目的で通っています。(市営で風呂、プール、ジム付きで430円位です)(60代/女性/id:591)
- ・ジムの利用の場合、シニアは¥200くらい。浴場+サウナの利用の場合は、プラス¥500くらいにしても良いのではないかと思います。(70代/女性/id:183)
- ・衛生面に重視した設備が必要 安価では不安がある。(70代/男性/id:105)

4) 近隣の類似施設についての言及

近隣施設の状況について、自身が利用している場合や見分をもとに言及がなされている。入浴施設の他の好事例に触れている場合には、入浴施設について目が肥えて、要求水準が高くなっていると思われる。

出された主な意見

- ・印西のスパは5才?以下の子は入れなくなっていて、落ちついているところが良い。水の衛生面でも良い。(20代/女性/id:167)
- ・龍ヶ崎の湯ったり館みたいな施設があればぜひ利用したいです。(30代/女性/id:185)
- ・龍ヶ崎の入浴施設みたいに、書店やスーパー等が併設していると、より便利だとお客様も増えると思います。(30代/男性/id:235)
- ・福島県に健康増進施設に、BBQ場、宿泊ロジ、グランドゴルフ場が併設されている施設がありとてもいいと思った。(泉崎カントリーヴィレッジ) 近くに公園又は、サッカーコート等もあれば合宿などでも利用できるのでもいいと思う。(30代/男性/id:78)
- ・必要性はあまり感じない。近くの市町村からも人が集められれば町のにぎわいになって良いかもと思う。取手のグリーンスポーツセンターのようなものを目指すのか、かたらいの郷なのか、湯楽の里なのか、どのような施設をつくるのか設定がよく分からない。東京まで通勤しているので平日はほとんど町内にいないので自分が使う機会はないかと思う。利根町の人はそのような人が多いのでは。(40代/女性/id:621)
- ・健康増進施設に、入浴する場は不要。ゆったり館へのアクセス、サービス券などの配布等で、良いと思う。(50代/女性/id:72)
- ・利根町の人口の年齢層から考えると利根町に作っても運営が成り立たないと思う。私は現在仕事帰りに龍ヶ崎のカーブスに寄って来る。仕事を辞めたら、たつこのプールへアクアビクスに行きたいと思っています。(60代/女性/id:242)
- ・柏市、手賀沼の満天の湯は施設サービス価格共にいいと思います。近くにあれば利用したいと思います。(60代/女性/id:587)
- ・近郊に温泉(日帰り)は数多くあるが、「満天の湯」が最高評価 こちらを参考にされると良い。(70代/男性/id:122)
- ・①取手及び藤代、龍ヶ崎市に現在「湯」があるから補助券や交通の巡回バス等を発行(運行)する等かつ病院スーパー等を回るコースを設け、特に老人が外に出て、湯やデパート、スーパー等に行ける利便性をはかる。政策をしていただきたい。(70代/男性/id:126)
- ・健康増進施設については、利根町のすぐ隣の龍ヶ崎市、取手市、我孫子市などで、すでに運営されているので、利根町においても早急に実現してほしいと願っていました。ぜひ実現していただきたいと希望します。(70代/男性/id:575)

5) 町内にできることへの期待

交通手段がなく、あるいは将来的には（自家用車を手放すので）なくなるとの見込みの中で、近場である町内に出来ることを切望する意見がみられた。自家用車を使って広域的に買い物・レジャー行動されている方が多いと思われるが、隣接する龍ヶ崎市に「行くのは面倒」との記述もあった。

出された主な意見

- ・龍ヶ崎市まで行くのは面倒なので、施設ができれば非常にありがたい。(20代/男性/id:372)
- ・週に一度は龍ヶ崎のトレーニング施設を利用しています。また、休みの日は友人と銭湯にも行くので、健康増進施設がこの利根町にできればぜひ利用したいです。特に、露天風呂が好きで、種類も多く清潔な施設であれば利用頻度も多くなると思います。(20代/男性/id:600)
- ・入浴施設が利根町に出来たら必ず利用します。是非つくって頂きたい。できれば、リハビリ治療に効果のある電気風呂があるとうれしいです(40代/女性/id:231)
- ・以前はスポーツジムに通ったりもしたが遠くて続かなかった。身近にプールやジムなど運動できて入浴できる施設があれば是非利用したいと思う。(50代/女性/id:94)
- ・私自身は車がなく、入浴施設はどこも遠く、もっと頻回に行きたいけれど、なかなか行く事が出来ません。利根町に入浴施設が出来たらどんなに良いだろうとよく家族と話しています。時々行くのなら少し高くても満足度の高い所を少し足をのばして出かけますが、もし近くに出来たら、週2～4回、可能な限り行きたいと思えます。ただそれだと料金は出来れば安い方が行きやすいです。(50代/女性/id:559)
- ・すばらしい計画だと思います。近隣に行かないと、その様な施設のない利根町は住民にとっては"な一にも無い、たいくつな所"であって、不満だらけでした。何かの施設が欲しいです。買い物も他の町に行くしかないし。施設ができるのであれば、清潔面だけには充分にお金を使って欲しいと思います。そうでないと、行かなくなります(60代/女性/id:103)
- ・私は一人暮らしで、家に車がありません。健康施設には友人に誘われて、何度か行ってきましたがいつも行くのは気が引けて、時々、連れていってもらっております。ですから、利根町にそのような施設が出れば、一人でも気がねなく行けるので、是非作っていただきたいです。(60代/女性/id:65)
- ・現在は自力で県外の温泉に足を伸ばして天然温泉を楽しめてますが、今後の高齢化を考えると町にあったらと切に望みます。(70代/女性/id:590)
- ・スポーツジムに行っていたのだが、遠いので今は行っていない。利根町内にあれば再開したい。風呂だけだと魅力がないが、健康増進施設があれば行きたい。(70代/男性/id:294)

6) 域外からの集客や活性化への期待

入浴施設目当てに広域から集客が可能になることで、地域が活性化したり、経済的に潤うようになることに対して期待する見方が散見された。その施設で、利根町のよさをPRできる場所になるとも述べられている。

出された主な意見

- ・町外からも利用客を見込めるような施設になるようでしたら、作ことには賛成します。お年寄りや、子育て世帯がのんびり利用できるような所になればいいなと思います。(30代/女性/id:524)
- ・利根町の発展を考えてそう言った施設を作ってみてもいいと思う。みんなが集まれる様な、利用できる様ないい場所を作ることによって少し活性化が期待できるのではないのでしょうか。(30代/女性/id:327)
- ・この様な施設ができると、小学生、中学生も仕事体験や、利用することが増えて、活発になっていくのでは。お年寄りだけでなく、若い人達にも利用しやすい面を考えていただきたいと思います。とねりんグッズとか、施設内で(マルシェ・イベント・発表会 etc) 集合できる機会を作っていただきたいと思いました。楽しみにしています。(40代/女性/id:354)
- ・北海道日本ハムファイターズの「ボールパーク」構想ではないが、活性化出来る様に施設単独ではなく、人の交流が活発になる様なモール施設の様なものが付帯すればいいなと思う。(50代/男性/id:54)
- ・周辺地域はもとより日本中、世界から人を呼び寄せることができる居心地の良い町づくりの一環として、魅力ある天然温泉施設が必要だと思っています。コンセプトは健康、そして食、運動(フィットネス)、利根町の文化、美しい星空、里山風景などをテーマにして、利根町の良さを広く発信すれば人は集まると思います。立地は、利根川、桜並木、夕日に富士山が見れるような周辺に明るい場所(夜は暗い場所←星空を見るため)が良いと思います。(60代/男性/id:230)
- ・健康増進施設を是非つくっていただきたい。自分の町にあれば気軽に利用できるので、すごく楽になる。又、他の市町村からも来ていただければ町にも活気が出る。人口も増加するかも知れない。(70代/女性/id:196)
- ・施設について、町民はもとより立ち寄り湯、日帰り温泉の様に町民以外の人に利用してもらえる様な施設が良い。利根町は自然豊かな町です。それを活かす施設になればと思います。たとえば、露天風呂から利根川に沈む夕日を見る。花火を見る。桜を見る。又、サイクリング、ウォーキング、テニス、野球、グランドゴルフ等スポーツの後にただ、お風呂だけではなく、それにつながる可能性のある施設。(70代/女性/id:446)

7) 施設は不要

町内に入浴施設を新規に設置することに対して否定的見解が述べられている。町の政策として見た場合、税金が投じられることに対する批判や他に優先すべき施策があるといったものが理由になっている。

出された主な意見

- ・利根町には不要だと思います。もっと他の福祉関係や、減税対策などを考えて欲しいです。(40代/女性/id:347)
- ・施設は不要だと思うが(私は利用しないので)、もしも設置するとしても民営にすべき。町の設置も運営も反対です。(50代/女性/id:538)
- ・買い物もそうですが、車の運転が出来る限り、わざわざ遠くに行ったりしています。知り合いが多いと話をするのも面倒だし、まだ働いているので、色々な用事を短時間に済ませたいと思い実際にスポーツをする時間ありません。ましてや温泉施設となるとなおさら誰にも会わずゆっくりしたいとわざと近場をさけたいと思いますので必要ないと思います。(50代/男性/id:270)
- ・メンテナンスに高額費用(維持管理)がかかる。町の施設はもう不要です。町の借金を増やさないで下さい。健康増進の為に我孫子、取手のプールに行っていますが、バスの本数が少なすぎて往復に困っています。まずはバスの増便を！(60代/女性/id:449)
- ・今後は少子化であるから、近隣の市と連携したもので、他の市にある施設を利用、補助を行うことをして、これ以上小さな町で箱ものは必要性が少ない。(70代/男性/id:126)
- ・人口減少が進む中、高齢者が年々増加する最近、箱物行政は時代にそぐわないと思いい必要ない施設と考えます。建物を建設するには、多額の費用の捻出や維持管理等、経費が年々かさみ無駄な施設となってしまう。もっと有意義な施設に財政的措置をした方が賢明かと思います。再考を願います。(70代/男性/id:324)

知り合いと会いたくないために町内施設には行かないので不要といった見解も見られた。自由記述でまとまった意見として見られた、“知り合いの目があるので利用はしたくない”といった見解に通じるものも理由になっている。

《参考》知り合いや近所の方と会う可能性が高い為、施設や設備としてかなり魅力がなければ行ってみようという気持ちにはなれない気がした。(20代/男性/id:550)

巻末資料とエビデンス資料

1. 利根町民対象の郵送アンケート調査票（巻末資料 P. 53～60）
2. 利根町町民の自由回答全文書き出し（巻末資料 P. 61～77）
3. WEB アンケート調査の調査項目と GT 表（巻末資料 P. 78～93）